授業科目名	専門演習Ⅰ（足立）	担当教員名	足立　俊輔				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	春学期では、会計の仕組みについて分かりやすく書かれているテキストを輪読して授業を進めていく。 秋学期では、実際の企業の貸借対照表や損益計算書の分析できるように講義を進めていく。簿記の基礎を学習し、その知識が実務でどのように用いられているのかまで理解できるようケースを交えながら学習していく。 一年を通じて、「財務分析（企業の健康診断）」ができるようになるようにゼミを進めていく。 また、受講者の要望により、公会計や非営利組織の会計について学習することも考慮するようにしたい。
到達目標	簿記・会計の基本的な学習も同時並行で行いながら、 一連の「財務分析」ができるようになることを念頭に置いている。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	70	受講態度、レジュメ作成、グループ報告
	小テスト		
	レポート	30	グループ作業・（インゼミ報告）
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	このゼミは、会計や簿記、特に財務分析に興味のある方におすすめです。 前期に取り扱う書籍：『ビジネス会計検定試験公式テキスト』（最新版） 後期に取り扱う書籍→財務分析に関するビジネス書を春学期末までに選択しておきます。 ・やむを得ない事情で欠席しなければならない場合は、必ず連絡すること。

事前受講を推奨する科目		
	簿記原理Ⅰ	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ビジネス会計検定試験公式テキスト』	大阪商工会議所編	中央経済社	最新版

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	対面ゼミを全回想定しています

授業の計画		
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法について説明します。
2	財務諸表とは	テキスト第１章 財務諸表の利用、会計の基本的プロセス
3	貸借対照表①	テキスト第2章 貸借対照表の仕組み、資産
4	貸借対照表②	テキスト第2章 負債、純資産
5	損益計算書①	テキスト第3章 損益計算書の仕組み、売上総利益、営業利益
6	損益計算書②	テキスト第3章 経常利益、税引前当期純利益、当期純利益
7	キャッシュフロー計算書	テキスト第4章 キャッシュの範囲、キャッシュフロー計算書の読み方
8	財務諸表分析①	テキスト第5章 財務諸表分析の関係者と対象情報、基本体系
9	財務諸表分析②	テキスト第5章 基本分析
10	財務諸表分析③	テキスト第5章 成長性分析
11	財務諸表分析④	テキスト第5章 安全性分析
12	財務諸表分析⑤	テキスト第5章 キャッシュフロー分析
13	財務諸表分析⑥	テキスト第5章 収益性分析
14	グループ調査報告（予定）	財務分析またはアンケート調査分析を予定
15	前期のまとめ	前期で学習したことをゼミでまとめていきます。
16	後期ゼミ題材のレクチャー	後期で学習する事項の基礎的なことをレクチャーします。
17	財務諸表の体系	財務諸表のつながりや各勘定の内容を確認します。
18	財務分析入門	貸借対照表と損益計算書のチェックポイントの確認
19	財務分析のテクニック①	成長性分析
20	財務分析のテクニック②	安全性分析
21	財務分析のテクニック③	損益分岐点分析
22	財務分析のテクニック④	キャッシュフロー分析
23	財務分析のテクニック⑤	生産性分析
24	財務分析のテクニック⑥	収益性分析
25	実際の財務分析①	これまで勉強してきた財務分析の復習
26	実際の財務分析②	これまで勉強してきた財務分析の復習
27	グループ報告①	財務分析の結果をグループで報告する
28	グループ報告②	財務分析の結果をグループで報告する
29	他大学とのゼミ交流（予定）	グループ報告の内容を他大学とのゼミ交流で報告
30	後期のまとめ	後期で学習したことをゼミでまとめていきます。

授業科目名	専門演習Ⅰ（石井）	担当教員名	石井　良輔				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本科目ではゲーム理論を学ぶ。ゲーム理論とはどういうものなのか、想像で構わないので考えてほしい。囲碁・将棋などでの必勝法分析をイメージする人もいるし、オンラインゲームでいかに短時間で（あるいは課金に応じずに）レベルを上げるかをイメージする人もいる。これらは完全に正解とはいえないものの全くの見当外れでもない。 大雑把には、ゲーム理論とは戦略的状況における人間の意思決定の分析を行うものである。ここで、「戦略的状況」とは、自分の利害が、自分自身の行動だけでなく、他人の行動にも左右される状況のことを指す。囲碁や将棋での勝ち負けは、自分の行動はもちろん相手の行動にも依存することは容易に理解できる。オンラインゲームにしても、同じく戦略的状況といってよい。無論「勝負事の必勝法分析だけがゲーム理論だ」との暴論は成り立たない。しかし、普段我々が直面する意思決定問題は戦略的状況であることがほとんどである。日常生活の行動基準を、あたかも将棋を指しているかのように論理的に考えれば、それはゲーム理論なのである。
到達目標	完全情報の戦略形ゲームを通して、自らが周囲ともつ関係を正しく理解し、他者の行動を客観的に分析できる、「ゲーム心」を涵養する。 ・利得行列を用いてナッシュ均衡を求められる ・完全情報の展開形ゲームにおいて、バックワードインダクションで解ける ・展開形ゲームを戦略形ゲームに変換できる ・交互ゲームの解とは異なるナッシュ均衡を求められる ・日常生活の場面を戦略形ゲームとして定式化して解き、解釈ができる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	100	30秒スピーチを含むグループワーク、紙芝居作成、紙芝居プレゼンテーションなどの参加状況による
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	文部科学省や大学基準協会の要請に応えるべく、規定回数以上出席し、平均して毎回4時間の授業外学修をせよ。 具体的には、毎回の授業の予習として2時間以上をかけて教科書の対応部分を通読せよ。重要と思う部分とその理由、新しく知ったこと、質問・コメントをノートに整理しプレゼン素案を作成せよ。 毎回の授業の復習として、2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し授業内容を検討せよ。

事前受講を推奨する科目		
	経済学入門	ミクロ経済学Ⅱ
	ミクロ経済学Ⅰ	経済数学

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ゲーム理論』	渡辺隆裕	日経文庫	2019

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	ミクロ経済学では市場理論を学ぶことが多く、ゲーム理論はあまり学ばない。市場理論をよく理解した人には「こんなミクロ経済学もあるのか」と気づけるし、市場理論がだめだめだった人には「ミクロ経済学も悪くないかも」と思える。この意味で、「ミクロ命」的な人には向かないかもしれないし、ミクロがちんぷんかんぷんだった人には新しい視座を提供できそうである。最後まで諦めず、そして根拠のない自信をもって受講されたい。

授業の計画		
1	イントロダクション	授業の進め方について概要を紹介し、「他己紹介」というアイスブレイクを行い、他のゼミ生について知る
2	30秒スピーチ	毎回の授業で、座席指定で毎回席替えのグループ内で行う30秒スピーチを紹介し、その注意点を学ぶ
3	紙芝居プレゼンテーション	紙とペンとマグネットバーさえあれば、その場でプレゼンテーション案を作成し、実際のプレゼンテーションができることを学び、実践する
4	メールを送ろう	メールの作法については様々な流派があり、どれが正しいとはものの、「これさえ守っておけば怒られは発生しにくい」ルールについて学ぶ
5	同時ゲームとは	プレイヤーたちが同時に意思決定をするゲームを用いて、ゲームの3要素である、プレイヤー、戦略、利得について学ぶ
6	支配戦略	「相手が何をプレイしようが自分はこれをしておきさえすればよい」という支配戦略について学ぶ
7	二人ゲームで両方に支配戦略のあるゲーム	二人ともに支配戦略のあるゲームについて学び、二人ともその支配戦略をプレイすることがそのゲームの解であることを学ぶ
8	一方のみに支配戦略をのあるゲーム	二人のうち一方に支配戦略のあるゲームについて学び、一方のゲームの解に対する他方の最適反応が、そのゲームの解であることを学ぶ
9	ゲームの解はナッシュ均衡で決まり	支配戦略のないゲームに関しても、「最適反応利得に下線を引く」手法によってゲームの解を求められることを学ぶ
10	交互ゲームとゲームの木	同時ゲームに手番をつける形式で「先手の行動を観察後に後手が行動を選択する」ゲームについて考え、手番つきゲームをゲームの木で表す
11	バックワードインダクション	ゲームの木が与えられたときに「後ろから解く」ことで、交互ゲームの解の求め方（バックワードインダクション）を知る
12	複雑なゲームの木と交互ゲームの解	様々なゲームの木に対して、単純な交互ゲームと同様の考え方で交互ゲームの解解を求められることを知る
13	交互ゲームを同時ゲームで表現する	ゲームの木が与えられたときに、そのゲームの木と全く同じ状況を表現する同時ゲームを利得行列を用いて表す
14	交互ゲームの同時ゲーム表現のナッシュ均衡	交互ゲームを利得行列で表したときのナッシュ均衡を求める
15	利得行列とゲームの木の対応	交互ゲームを利得行列で表したときのナッシュ均衡が、交互ゲームの解以外にも存在することを知る
16	春学期の復習	夏休みを挟んで忘れている内容を確認し、演習問題を通して簡単な復習を行う
17	ゲームの木を用いたナッシュ均衡の確認	交互ゲームを利得行列で表したときのナッシュ均衡が、確かに逸脱するインセンティブがないことを確認する
18	チキンゲーム	映画のストーリーのなかで、複数のナッシュ均衡が存在するゲームとして解釈できる状況があることを知る
19	チキンゲームとフォーカルポイント	第18回の状況において、実際にどのナッシュ均衡が選ばれるかについて議論する
20	コミットメント	実際の行動よりも前に、自らの行動を表明することで、自分にとって有利に物事を運べる状況が存在することを知る
21	先手が有利か、後手が有利か	状況によっては先手をとるべきか後手をとるべきかを、バックワードインダクションを通じて考える
22	インセンティブとゲーム理論	契約を提示する側、提示される側両方の立場になって、最適な契約、受け入れるか拒否するかの意思決定について考える
23	努力と報酬のインセンティブ	できるだけ報酬を低く抑えたい契約提示側と、ボーナスの水準によって努力するか否かを決定する被提示側の問題を考える
24	報酬と罰則によるwin-winの契約	うまくインセンティブ設計ができれば、契約の提示側、被提示側は必ずしも対立関係にないことを学ぶ
25	交渉をゲーム理論で考える	戦略的状況のあり方によって、交渉力などをゲーム理論の枠組みで考えられることを学ぶ
26	交渉の利益と余剰の分配	交渉問題もwin-winの関係にあることを理解し、その結果、「おトク感」が契約の双方でどれだけ発生するか計算する
27	最後通牒ゲーム	行動経済学でよく実験されている最後通牒ゲームについて学び、これが非協力ゲームの交渉問題の第一歩であることを理解する
28	実験経済学	行動経済学での実験が理論と不整合であることを学び、それに対して最先端の研究が何を追究しているかを学ぶ
29	オークション	様々なオークションの形式を知り、それぞれで戦略的に行動するとどうなるかを知る
30	競り	オープンビッドオークションと入札の違いを理解し、それぞれの最適な戦略がどう異なってくるかを学ぶ

授業科目名	専門演習Ⅰ（石川）	担当教員名	石川　朝子				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習では、社会学的な視点から現代中国について考察する。一例として、「人の移動」という視点から現代中国を眺めてみると、1978年の改革開放政策開始後には、中国から国外に向けた人やモノの移動が活発化した。また、出国政策の緩和により、留学などの出国ブームが起こり新移民が増加した経緯がある。さらに「華僑」に代表されるように、東南アジアだけではなく日本や欧米などにおいても、中国系移民の歴史は長く、規模も大きい。 本ゼミでは、このような現代中国の社会の変化などを踏まえて、中国社会の「今」について学びを深めたい。春学期では、前半で教科書をもとに論文の存在意義や執筆の心得、論文の種類によるテーマの選び方、調査方法などについて学ぶ。後半では文献講読と発表、討論を通して、自身の問題関心と研究テーマを明確化させていく。秋学期前半では、興味関心に沿った文献資料の整理の仕方について学び、発表準備を行う。後半では、研究計画を作成し、発表を行う。
到達目標	本演習では、次の３点を到達目標とします。 ①現代中国社会を読み解くための視点を獲得する。 ②様々な文献や資料を読んだり、ディスカッションを行うことで、自らの研究に関する興味関心を明確化させる。 ③その興味関心に沿った研究計画書の作成やレポートなどの作成ができることを目指す。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点		
小テスト		
レポート	70	レポート（自身の研究テーマに関する発表）内容で評価します
定期試験		
その他	30	ディスカッションへの参加やプレゼンテーションで評価します

事前・事後学習	事前学習として、教科書や文献資料を熟読の上、レジュメ作成および報告準備を行うこと。 それらを踏まえて、ゼミ参加前までに疑問点を確認し準備を行うこと。 事後には既習内容の整理を行い、必要な場合は各自で書籍や文献にあたり分析・考察を深めることを期待する。
事前受講を推奨する科目	中国語（最新情報を得るために中国語文献等を活用する時がある。）

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『論文作法―調査・研究・執筆の技術と手順―』	ウンベルト エーコ	而立書房	1991年
『基礎からわかる　論文の書き方』	小熊英二	講談社現代新書	2022年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『Chinese Transnational Networks』	Tan Chee-Beng (ed.)	Routledge	2007年
『華人ディアスポラー華商のネットワークとアイデンティティ』	陳天璽	明石書店	2001年
『日本華僑社会の歴史と文化』	曽士才・王維	明石書店	2020年

備考	ゼミでは、英語や中国語の文献を講読することがあります。読解力は問いませんが、意欲的に外国語文献に取り組む姿勢が求められます。 本ゼミでは、さまざまな研究テーマを設定し自由に探究することができます。(例えば、多文化共生、外国にルーツをもつこども、教育問題、格差問題、ジェンダー、家族関係、環境問題、若者の価値観、などなど)

授業の計画		
1	オリエンテーション	本演習の目的や到達目標、今後の演習の進め方やスケジュールなどについて
2	教科書講読①	第1章　学位請求論文を中心とした、論文の存在意義や執筆の心得
3	教科書講読②	第2章　論文の種類によるテーマの選び方
4	教科書講読③	第3章　調査による文献資料の収集
5	論文作成についてのディスカッション	各自の疑問点を持ち寄りディスカッションすることを通して、第1章～第3章までの内容を更に深める
6	人の移動と中国社会①	チャイニーズ・ディアスポラという視座
7	人の移動と中国社会②	華僑の歴史、華人・華裔、僑郷
8	人の移動と中国社会③	世界におけるチャイナタウンの形成と文化継承
9	人の移動と中国社会④	華商ネットワークとは？
10	人の移動と中国社会⑤	日本におけるチャイナタウンの形成と文化継承
11	人の移動と中国社会⑤	中国留学生
12	人の移動と中国社会⑤	中国労働移民
13	人の移動と中国社会⑤	中国残留孤児と中国帰国者
14	研究テーマの選出①	自身の問題関心と研究テーマを探り、方向性を模索する
15	研究テーマの選出②	自身の問題関心と研究テーマを探り、方向性を模索する
16	後半オリエンテーション	後半の目的や到達目標、今後の演習の進め方やスケジュールなどについて
17	教科書講読④	第4章　先行研究の整理
18	プレゼンテーションとディスカッション①	それぞれの問題関心に沿って収集した文献資料について発表する
19	プレゼンテーションとディスカッション②	それぞれの問題関心に沿って収集した文献資料について発表する
20	プレゼンテーションとディスカッション③	それぞれの問題関心に沿って収集した文献資料について発表する
21	プレゼンテーションとディスカッション④	それぞれの問題関心に沿って収集した文献資料について発表する
22	プレゼンテーションとディスカッション⑤	それぞれの問題関心に沿って収集した文献資料について発表する
23	検討①	これまでの発表とディスカッションから、テーマ選出や今後の進め方について検討を加える
24	検討②	これまでの発表とディスカッションから、テーマ選出や今後の進め方について検討を加える
25	教科書講読⑤	第8章　研究計画書とプレゼンテーション【小熊】
26	研究計画書の作成①	実際に研究計画書を作成します
27	研究計画書の作成②	実際に研究計画書を作成します
28	研究計画書のプレゼンテーションと検討①	作成した研究計画書についてプレゼンテーションを行い、検討を加える
29	研究計画書のプレゼンテーションと検討②	作成した研究計画書についてプレゼンテーションを行い、検討を加える
30	全体総括	これまでの学びを振り返り、目標達成について確認を行う

授業科目名	専門演習Ⅰ（加来）	担当教員名	加来　和典				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	この演習では、都市について社会学の視点で学びます。 　社会学は、人々がなぜそう感じ・考え・行動するのかを社会との関係でとらえようとする学問です。ミクロな視点では行為や相互作用や集団を、マクロな視点では社会構造や文化を取り扱います。 　本演習では、都市社会学の基本文献を読みながら、現代の都市について、そこでの人びとの暮らしや地域のあり方を考えていきます。 　進め方は、前半で社会学の入門書を読み、社会学の基本的な事項を学びます。後半で、都市社会学の基本文献を読み、みんなで都市のあり方について議論していきます。また、折に触れ、いま起きている都市問題についても一緒に考えていきましょう。
到達目標	文献を読み、要約を作成し、報告できるようになりましょう。 　社会学の言葉（概念）を用いて、現状を分析できるようになりましょう。 　社会問題に目を向けられるようになりましょう。 　専門演習Ⅱに向け、自分なりの研究テーマを見つけられるようになりましょう。ちなみに、演習Ⅱは卒論作成を主としますが、この演習Ⅰで学んだ視点を基本として、対象は、各自自由に決めてもらいます。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	50	課題提出、議論への参加態度で評価します。
小テスト		
レポート	50	学期末のレポートで評価します。
定期試験		
その他		

事前・事後学習	事前：指定された文献をしっかり読んで、レジュメ（メモ）を作成してきてください。また、みんなで議論したいことを考えてきてください。 事後：テキストで紹介されている参考文献等から、自分なりに選択して読んでください。月に1冊以上読むことが望ましいと考えます。

事前受講を推奨する科目		
	社会学	農村社会学（同学年開講）
	都市社会学（同学年開講）	社会調査論（同学年開講）

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『社会学入門』	盛山和夫他編著	ミネルヴァ書房	2017年
『近代アーバニズム』	松本康編	日本評論社	2011年
『都市空間と都市コミュニティ』	森岡清志編	日本評論社	2012年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『社会学小辞典　新版増補版』	浜嶋・石川・竹内編	有斐閣	2005年
『都市の政治経済学』	町村敬志編	日本評論社	2012年
『よくわかる都市社会学』	中筋直哉他編著	ミネルヴァ書房	2013年

備考	

授業の計画		
1	春学期ガイダンス	演習の概要説明（テキスト・目的・報告の仕方などを説明します）。 自己紹介をします。
2	社会学入門文献講読	第１章　社会学とは何か 　社会学の基本的な考え方を見てみます。 （2回から14回までは『社会学入門』から）
3	社会学入門文献講読	第21章　社会学の理論と方法 　方法的個人主義／方法的集合主義などの社会学のいくつかの立場と、それぞれが展開する理論の概要を見ていきます。
4	社会学入門文献講読	第２章　自己と社会 　自己が社会的に形成されるとすれば、それはどのように説明できるでしょうか。社会学の見方で考えます。
5	社会学入門文献講読	第５章　階級・階層 　社会が生み出す富はどのように分配されているでしょうか。分配のメカニズムやその結果を見ていきます。
6	社会学入門文献講読	第６章　教育と労働 　教育にはいくつかの側面があります。学歴がその後の仕事と深く結びついているのは、どのような点で問題でしょうか。
7	社会学入門文献講読	第３章　家族とジェンダー／第12章　セクシュアリティ 　性には社会的な側面があります。社会は性をどのように取り扱っているでしょうか。
8	社会学入門文献講読	第４章　市民社会と公共性／第８章　社会運動 　社会は変化をしていきます。それはどのような前提とどのような要因によるのでしょうか。
9	社会学入門文献講読	第７章　都市と地域社会／第15章　災害とボランティア 防災に関して、地域社会・ボランティアは何ができるでしょうか。可能性と限界を考えます。
10	社会学入門文献講読	第９章　エスニシティ／第17章　宗教 　21世紀になり、民族問題や宗教対立が目立つようになりました。問題の基本を理解しておきましょう。
11	社会学入門文献講読	第10章　福祉国家と社会福祉／第19章　政治と国家 　現代における国家の役割とは何でしょうか。国家にはどのような政治体制があるのでしょうか。
12	社会学入門文献講読	第11章　貧困と社会的排除／第13章　健康と医療 　貧困は健康状態と結びついています。貧困を生むメカニズムと医療制度のあり方を考えましょう。
13	社会学入門文献講読	第14章　環境と科学技術／第20章　グローバリゼーション 　科学技術の負の側面は、グローバリゼーションにより、地球規模の影響をもたらします。
14	社会学入門文献講読	第16章　メディアと文化／第18章　犯罪と逸脱 メディアの「発達」はどんな文化を生み出しているでしょうか。また、犯罪との関わりは。
15	卒論の構想1	各自が学んだことをもとに、卒論の構想を報告してもらいます（もちろん、将来的に変更しても構いません）。
16	秋学期ガイダンス	演習の概要説明 　17回以降は、『近代アーバニズム』『都市空間と都市コミュニティ』から論文を指定し、要約を作成、議論します。
17	都市社会学文献講読	大都市と精神生活（ジンメル） 　心的相互作用から捉えた都市人のパーソナリティなど 　＊17回から22回までは『近代アーバニズム』より
18	都市社会学文献講読	都市の成長-研究プロジェクト序説（バージェス） 　都市成長に関する同心円地帯理論を見ていきます。
19	都市社会学文献講読	都市--都市環境における人間行動の研究のための提案（パーク） 　シカゴ学派の基本的な研究課題を見ておきます。
20	都市社会学文献講読	生活様式としてのアーバニズム（ワース） 　都市はどう定義されているでしょうか。都市化によって、社会や人はどのように変化するでしょうか。
21	都市社会学文献講読	都市化の概念と理論的枠組み（倉沢 進） 　シカゴ学派の視点は日本でどのように深められたでしょうか。
22	都市社会学文献講読	アーバニゼイションの理論的問題（鈴木 広） 　ワース論文に対するさまざまな批判は正当なものなのかを考えます。
23	都市社会学文献講読	前産業型都市（ショバーグ） 　都市化は現代だけのものではないが…。 ＊23回以降は『都市空間と都市コミュニティ』より
24	都市社会学文献講読	生態学的変数としての感情とシンボリズム（ファイアレイ） 　都市の真ん中に史蹟があるのは不都合なだけか。合理性だけで都市はできていません。
25	都市社会学文献講読	生活様式としてのアーバニズムとサバーバニズム　（ガンズ） 　ワースは過度にアーバニズムを強調したのでは。郊外には違った生活様式がある。
26	都市社会学文献講読	ネットワーク、近隣、コミュニティ（ウェルマン＆レイトン） 　人は地域社会の中だけで生活しているわけではない。コミュニティを再定義すると。
27	都市社会学文献講読	アーバニズムの下位文化理論に向かって（フィッシャー） 　都市で逸脱が起きるメカニズムは。ここでいう逸脱には新しい文化も含んでいます。
28	都市社会学文献講読	都市研究における中範囲理論の試み（鈴木広） 　都市は人口の大小だけで捉えることはできません。八幡と相生が同質の都市とは。
29	都市社会学文献講読	都市町内会論の再検討（中村八朗） 　町内会がGHQによって禁止されていたことは知っていますか。それはなぜ。また、どうして復活したのか。
30	卒論の構想2	各自が学んだことをもとに、卒論の構想を立て、報告してもらいます。

授業科目名	専門演習Ⅰ（岸本）	担当教員名	岸本　充弘				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	鯨やフグ等、下関を代表する水産物やその他の地域資源を活かして、地域振興にどのようにつなげることができるのか調査研究を行い、最終的に提言（提案）という形でレポートにまとめる内容の演習を予定しています。 　前半（春学期）は、文献調査やレポート作成、現場でのヒアリング（フィールドワーク）等を通じて、調査手法やレポートの作成、プレゼンの基本を身に付けていただく予定です。後半（秋学期）には各グループ（①政策提案②事業提案③商品開発提案等）ごとにテーマを決め、各種文献調査、フィールドワーク、レポート（提言（提案）書）を作成し、最終的にプレゼンを行っていただく予定です。なお、秋学期からのゼミの司会進行は各グループごとに持ち回りで実施し、4年生との合同ゼミも検討しています。
到達目標	・基本的な文献調査等の先行研究調査ができること ・現場でのヒアリング調査（フィールドワーク）等ができること ・レポート作成（論文に準じた構成や引用等の記載を含む）ができること ・基本的なパワーポイントの作成やプレゼンテーションができること

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	60	出席状況、議論等への参加状況等
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他	40	レポート、プレゼンの内容等

事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネット等により様々な情報を集めておいてください。関連がなさそうな事柄から、大きなヒントになり、繋がることもあります。様々なことに興味関心を持ち、分野を問わずチャレンジする精神を養うことが大切です。
事前受講を推奨する科目	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『教科書は指定しない』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			
『データで読む地域再生』	日本経済新聞社地域報道センター	日本経済新聞出版	2022

備考	この授業は、行政機関等での実務経験がある教員が行う授業です。

授業の計画		
1	オリエンテーション	専門演習の進め方、自己紹介、グループ分け
2	レポートの書き方、プレゼンの仕方等	文献の調査方法、レポートの書き方、プレゼンテーション等の基本について習得する。
3	①グループ発表準備・報告	水産物や地域資源を活用した地域振興の事例を文献等により調査し、各グループでレポートを作成、発表するための準備を行う。準備状況の報告。
4	②グループ発表準備・報告	水産物や地域資源を活用した地域振興の事例を文献等により調査し、各グループでレポートを作成、発表するための準備を行う。準備状況の報告。
5	③グループ発表準備・報告	水産物や地域資源を活用した地域振興の事例を文献等により調査し、各グループでレポートを作成、発表するための準備を行う。準備状況の報告。
6	グループ発表に向けての中間報告	各グループで発表に向けての中間報告を行う。
7	①グループ発表	各グループで取りまとめたレポートを発表する。
8	②グループ発表	各グループで取りまとめたレポートを発表する。
9	③グループ発表	各グループで取りまとめたレポートを発表する。
10	フィールドワークの手法について	フィールドワークを実施するにあたっての基本（事前準備、アポどり、調査票、とりまとめ等）を習得する。
11	①フィールドワーク	現場でのフィールドワーク
12	②フィールドワーク	現場でのフィールドワーク
13	フィールドワークの報告	実施したフィールドワークの取りまとめを行い、グループで報告する。
14	レポート作成、論文作成等について	レポートや論文作成における構成、引用、出所等に係る記載方法、個人情報の取り扱い等について習得する。
15	前半まとめ	前半（春学期）のまとめ及び補足と、後半（秋学期）に向けての準備（テーマ設定等）
16	後半オリエンテーション	提言（提案）書作成に向けてのオリエンテーション（進め方、グループ分け、テーマ設定等）
17	提言書作成に向けての演習	提言（提案）書作成に向けて各グループでテーマの確定、今後の進め方、スケジュール等を協議し、準備を行う
18	グループ演習（文献等調査）・報告	各グループごとに必要な資料、文献等の調査、収集を行う。状況を報告する。
19	グループ演習（文献等調査）・報告	各グループごとに必要な資料、文献等の調査、収集を行う
20	グループ演習（文献等調査）・報告	各グループごとに必要な資料、文献等の調査、収集を行う
21	グループ演習（フィールドワーク）	各グループごとに必要な聞き取り調査を行う
22	グループ演習（フィールドワーク）	各グループごとに必要な聞き取り調査を行う
23	グループ演習（フィールドワーク）	各グループごとに必要な聞き取り調査を行う
24	グループ演習（中間報告）	各グループごとに、文献調査、フィールドワークの結果を取りまとめ、今後の提言（提案）書作成の方向性について中間報告を行う
25	グループ演習（提言（提案）書作成）	各グループごとに、提言（提案）の作成を行う
26	グループ演習（提言（提案）書作成）	各グループごとに、提言（提案）の作成を行う
27	提言書に係るプレゼン	各グループごとに、提言（提案）のプレゼンを行う
28	提言書に係るプレゼン	各グループごとに、提言（提案）のプレゼンを行う
29	提言書に係るプレゼン	各グループごとに、提言（提案）のプレゼンを行う
30	専門演習Ⅰ総まとめ	各プレゼンに対する講評と専門演習Ⅱに向けてのガイダンス

授業科目名	専門演習Ⅰ（小村）	担当教員名	小村　有紀				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	この演習では、国や自治体の在り方について社会政策及び地域福祉の視点から学ぶ。 また、全体を通じて卒論の執筆に向けた準備を行う。 春学期には、特に以下のことを行う。 ・社会政策及び地域福祉に関連する論文の輪読 秋学期には、特に以下のことを行う。 ・社会調査の手法の習得 ・社会調査
到達目標	社会政策及び地域福祉について、根拠をもって自分の考えを述べることが出来るようになることを目指す。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	70	受講態度など
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他	30	プレゼン資料作成など

事前・事後学習	・授業の前に、使用する教科書などを読み、ゼミでの議論の準備をすること。また、担当する箇所については報告資料を作成すること。 ・授業の後は、新聞やテレビのニュースなどについて授業で学んだことを結ぶつけて考えること。 ・卒論に向けて各自準備をすること。

事前受講を推奨する科目

社会政策Ⅰ	地域福祉
社会政策Ⅱ	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『必要に応じて講義内で指示します』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『必要に応じて講義内で指示します』			

備考	・基本的に「対面」でのゼミを予定している。 ・受講生の希望などにより、授業計画を変更することがある。 ・やむを得ない事情で欠席する場合は、事前にメールなどで連絡すること。

授業の計画		
1	ガイダンス	講義の進め方などについて説明する。 前期で学習することを説明する。
2	レポート作成、論文の読み方など①	レポートの作成方法、プレゼン資料の作成方法などを習得する。
3	レポート作成、論文の読み方など②	文献調査の方法や論文の読み方などを習得する。
4	論文輪読①	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
5	論文輪読②	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
6	論文輪読③	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
7	論文輪読④	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
8	論文輪読⑤	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
9	論文輪読⑥	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
10	論文輪読⑦	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
11	論文輪読⑧	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
12	論文輪読⑨	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
13	論文輪読⑩	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
14	論文輪読⑪	学術雑誌掲載の論文について、担当者がレジュメを作成し、報告する。 報告内容に基づき、皆で議論する。
15	前期のまとめ	前期で学習したことを振り返る。
16	前期の復習と後期ゼミのガイダンス	前期で学習したことを復習する。 後期で学習することを説明する。
17	卒論の準備①	前期で学んだことなどから、各自に卒論の予定（テーマややってみたいこと）を報告してもらう。
18	社会調査の教科書輪読①	社会調査とは何かについて理解する。
19	社会調査の教科書輪読②	社会調査の種類を理解する。
20	社会調査の教科書輪読③	質的調査の手法を理解する。
21	社会調査の教科書輪読④	量的調査の手法を理解する。
22	フィールドワーク	フィールドワークの事前調査
23	フィールドワーク	フィールドワークの事前調査
24	フィールドワーク	フィールドワークの事前調査
25	フィールドワーク	学外でのフィールドワーク
26	フィールドワーク	学外でのフィールドワーク
27	フィールドワーク	学外でのフィールドワーク
28	フィールドワーク	フィールドワークのまとめ
29	卒論の準備②	1年を通じて学んだことなどから、各自に卒論執筆のスケジュールを報告してもらう。
30	後期のまとめ	後期で学習したことを振り返る。

授業科目名	専門演習Ⅰ（小柳）	担当教員名	小柳　真二				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	春学期は経済地理学に関連する論文（地域の産業、都市、交通など）を中心に、秋学期は受講者自身の関心によって選択した論文について、受講者による報告とディスカッションを行う。地域間の経済格差、産業とイノベーション、地方創生、地域振興といった現代の諸問題やその背景への理解を深めるとともに、論文の探索力や読解力、プレゼンテーション能力を高めていきたい。 また、Excelによる表計算や図表作成、地理情報システム（GIS）による地図作成等、データ処理について学ぶ。その実践として、文献講読の資料作成の際には独自の図表作成・分析を加えることとする。
到達目標	・文献の読解、要約ができる ・議論（質問・主張）する習慣・力を身につける ・論文を書く上での作法を身につける ・ExcelやGISによる作図ができる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	100	報告資料とプレゼンテーション（60%）、ディスカッションへの参加（40%）
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	事前：文献講読の担当者は、文献の内容要約や自分なりの批評、関連する統計データを紹介する資料を作成する。報告者以外は、文献を読んでおく。 事後：ExcelやGISによるデータ処理を学んだことを、自身の関心のある事柄で繰り返し実践する。

事前受講を推奨する科目		
	経済地理学	
	経済統計	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『地理学・地域経済関連の論文（演習内で指示する）』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	受講者数や習熟程度により、演習内容などを適宜変更する可能性がある。

授業の計画		
1	ガイダンス	ガイダンス、受講者自己紹介、文献講読の担当決めなど
2	文献・資料収集	各種文献・資料の探し方、読み方、まとめ方、参照・引用の作法
3	データの収集と処理	地域に関するデータを扱い、Excelによる効率的な情報処理を学ぶ。また発展的内容としてPythonによる効率的な情報処理を学ぶ
4	調査・研究の流れ	調査・研究の設計、実施、アウトプット（論文・報告書・プレゼン）の流れと意識すべき点を学ぶ
5	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
6	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
7	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
8	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
9	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
10	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
11	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
12	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
13	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
14	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
15	春学期のまとめ	春学期の要点をまとめる。また夏期休暇中の課題を指示する（受講者自身が卒業論文で研究を行いたいテーマ（仮で構わない）の選定を想定）
16	夏季休暇中の課題に関する報告	受講者による報告（研究テーマの報告と、秋学期において報告を行う文献のリスト提示）
17	夏季休暇中の課題に関する報告	受講者による報告（研究テーマの報告と、秋学期において報告を行う文献のリスト提示）
18	地理情報システム（GIS）	GISの基礎、QGISの基本操作
19	地理情報システム（GIS）	QGISによる地図（主題図）作成
20	地理情報システム（GIS）	QGISによる空間分析
21	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
22	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
23	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
24	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
25	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
26	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
27	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
28	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
29	文献講読	受講者による発表（文献の要約・批評＋α）とそれを受けたディスカッション
30	全体のまとめ	春学期・秋学期を通じた要点をまとめる。春期休暇中の課題を指示する

授業科目名	専門演習Ⅰ（佐藤）	担当教員名	佐藤　隆				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	行動経済学とは、それまでの経済学（伝統的経済学）のように最初から「合理性」を仮定するのではなく、人間の心理や行動を観察を通してその特徴を明らかにし、その上に経済学を再構築しようとする学問である。2002年にダニエル・カーネマンが、2017年にはリチャード・セイラーが、それぞれ行動経済学に対する貢献によってノーベル経済学賞を受賞して以来、関心が非常に高まってきている。 　本演習では、行動経済学を「実験」を通して学習することを目的とする。また演習の後半では、フロンティアとしての「神経経済学」や実社会において行動経済学がどのように利用されているかについても学ぶ。
到達目標	①ゼミ生同士の間で白熱した討論ができるような力を身につけることを目標とする。 ②そのためにはまず、報告者は担当分をまとめ、適切なレジュメを作成し、しっかりとした報告が出来るようにする。 ③報告者以外のゼミ生も、各章ごとにレポートをまとめ要点を把握し、十分な予習をやってきてもらう。 ④ゼミ生同士の間で質疑応答を行う。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	80	
小テスト		
レポート	20	
定期試験		
その他		

事前・事後学習	事前学習としては、レポーター以外のゼミ参加者もテキストをきちんと読んできて、ゼミでの議論に備えること。事後学習としては、関連する書籍や文献を読んでさらに理解を深めること。

事前受講を推奨する科目		
	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ	
	応用ミクロ経済学	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『行動経済学入門』	筒井義郎他	東洋経済新報社	2017年
『行動経済学（新版）』	大垣昌夫・田中沙織	有斐閣	2018年
『行動経済学（ケースメソッドMBA)』	岩澤誠一郎	ディスカバー	2020年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『行動経済学入門』	リチャード・セイラー	ダイヤモンド社	2007年
『行動経済学の逆襲』	リチャード・セイラー	早川書房	2016年
『行動経済学』	友野典男	光文社新書	2006年

備考	実際に何を行うかはゼミの参加者と協議して決めることもある。 基本的には「対面」を予定している。

授業の計画		
1	演習の概要説明	自己紹介
2	行動経済学とは？	テキスト全体の概要の説明　各章の報告者の割振りの決定
3	行動経済学とはどのようなものか	ホモエコノミカス：伝統的経済学の前提 人は合理的か？
4	限定合理性(1)	経済的な決定とヒューリスティクス　代表制、利用可能性
5	限定合理性(2)	アンカーリング、フレーミング効果
6	時間選好(1)	異時点間選択 時間割引率の測定方法
7	時間選好(2)	先延ばしと後悔のメカニズム 時間割引率のアノマリー
8	リスク選好とプロスペクト理論(1)	期待効用仮説 アレのパラドックス 確実性効果　小さな確率の過大評価
9	リスク選好とプロスペクト理論(2)	プロスペクト理論とその評価 参照点、価値関数、確率加重関数
10	社会的選好(1)	独裁者ゲーム実験 最後通牒ゲーム実験
11	社会的選好(2)	信頼ゲームと互酬性 違法副業ゲームと互酬性
12	社会的選好(3)	公共財供給実験と社会的ジレンマ 文化と社会的選好
13	お金に関する経済心理(1)	お金の経済的意義 メンタルアカウンティング
14	お金に関する経済心理(2)	サンクコスト 保有効果 機会費用
15	文化とアイデンティティ	文化経済学とは 文化経済学と実験 規範とアイデンティティ経済学
16	幸福の経済学	幸福の経済学の目指すもの 幸福のパラドックス
17	神経経済学とは何か？(1)	「報酬」に基づく意思決定 脳の構造と働き
18	神経経済学とは何か？(2)	効用関数の脳内表現
19	神経経済学とは何か？(3)	実験で時間選好を測る 時間選好に関わる脳機構
20	神経経済学とは何か？(4)	学習理論と神経経済学の実験 条件付けと学習理論 強化学習理論
21	神経経済学とは何か？(5)	脳の数理モデルとしての強化学習 予測誤差の脳機構 強化学習における時間割引とその脳機構
22	神経経済学とは何か？(6)	社会的選好の神経経済学 信頼ゲームにおける裏切りと報酬系 最後通牒ゲームと不公平
23	神経経済学とは何か？(7)	不公平に関する神経経済学 社会的感情の神経経済学
24	神経経済学とは何か？(8)	神経経済学の将来
25	実世界における行動経済学ーナッジー	ナッジ デフォルトの力 コミットメントの力
26	ナッジの拡張	ナッジの介入の費用対効果 教育・非認知能力・ソーシャルキャピタルに関する介入
27	行動ファイナンス 効率的市場仮設に抗う	現代の金融市場と効率的市場仮説 市場に勝つことはできない 株式市場は過剰反応を起こす
28	効率的市場仮設に抗う（2）	勝ち組の方が負け組よりリスクが高い 価格は正しくない
29	効率的市場仮設に抗う（3）	一物一価のウソ 市場は足し算と引き算ができない
30	全体のまとめ	全体のまとめ

授業科目名	専門演習Ⅰ（猿渡）	担当教員名	猿渡　剛				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	就職活動を進める過程で、目標達成に向けてPDCAサイクルを回す必要があります。志を高く持ち、自らに高い目標を課して学生生活を送った学生は、会社に入っても目標を高く設定し、その目標を達成するために物事を自分の頭で考えて行動するとみなされます。高い目標の設定や思考・実行をしてきた証拠となるのが「自己プロジェクト」であり、実際に自分でPDCAサイクルを回さなければ説得力のある説明ができないというわけです。 このゼミでは国際経済（東アジア経済や経済統合など）の知識を踏まえつつ「自己プロジェクト」に着手してもらい、その進捗状況を皆の前で報告してもらいます。また、PDCAサイクルを回していくなかで自身が培った、獲得した他の学生との差別化要因について、やはり皆に報告することになります。 上述の報告以外にも、面接の際の評価基準やグループ・ディスカッションの技術、問題解決の手法について文献を参照しながら学習していきます。
到達目標	次の３点が出来ることを目指します。 ①先入観にとらわれずにキャリア形成に向けて自身が取り組むべき課題を発見することができる。 ②社会の一員として地域や社会の発展に貢献するために、自ら成長し、国際経済（東アジア経済や経済統合など）の知識や多種多様な見識を学び続ける。 ③地域や社会の発展に向けて、主体的、協調的に他者を巻き込む行動をとることができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	７０	発言やプレゼンテーションを評価基準とします。
小テスト		
レポート	３０	借り物の言葉ではなく自分の言葉で表現できることを評価基準とします。
定期試験		
その他		

事前・事後学習	プレゼンテーションに臨むにあたっては入念な準備を求めます。
事前受講を推奨する科目	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『教科書は使用しません』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	ＰＰＴスライドまたは板書によって授業を進めます。

授業の計画		
1	イントロダクション	授業内容や発表の仕方などについての説明
2	採用基準・面接質問・評価の仕方（1）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
3	採用基準・面接質問・評価の仕方（2）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
4	採用基準・面接質問・評価の仕方（3）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
5	採用基準・面接質問・評価の仕方（4）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
6	採用基準・面接質問・評価の仕方（5）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
7	採用基準・面接質問・評価の仕方（6）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
8	ディスカッションをロジカルなものに（1）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
9	ディスカッションをロジカルなものに（2）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
10	ディスカッションをロジカルなものに（3）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
11	ディスカッションをロジカルなものに（4）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
12	ディスカッションをロジカルなものに（5）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
13	ディスカッションをロジカルなものに（6）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
14	ディスカッションをロジカルなものに（7）	教員による発表、学生・教員のディスカッション
15	前期のまとめ	前期で学習したことを振り返ります。
16	「自己プロジェクト」とは何か	教員による発表、学生・教員のディスカッション
17	「自己プロジェクト」の発表（1）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
18	「自己プロジェクト」の発表（2）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
19	「自己プロジェクト」の発表（3）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
20	「自己プロジェクト」の発表（4）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
21	「自己プロジェクト」の発表（5）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
22	問題解決のプロになる（1）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
23	問題解決のプロになる（2）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
24	問題解決のプロになる（3）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
25	問題解決のプロになる（4）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
26	問題解決のプロになる（5）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
27	問題解決のプロになる（6）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
28	問題解決のプロになる（7）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
29	問題解決のプロになる（8）	学生による発表、学生・教員のディスカッション
30	後期のまとめ	後期で学習したことを振り返ります。

授業科目名	専門演習Ⅰ（嶋田）	担当教員名	嶋田　崇治				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本専門演習では、主にプレゼンと課題（「問い」）発見の能力を高めることを目的に活動を進めていく。春学期は、共通のテーマ・課題を皆で設定し、グループに分かれて、プレゼン形式のコンペを行う（総当たり形式を予定）。秋学期は、その成果と反省を踏まえて、専門演習Ⅱへと繋がる個人研究の選定と報告を行うことが中心課題となる。四年生の卒論報告を聴く機会などを設け、各々の研究テーマを決め、個別報告に結びつける。
到達目標	到達目標は、①学術・就職活動など様々な局面で役に立つプレゼン能力を身につけること、②その作業の過程で、興味をもてる研究テーマや「問い」を発見すること、③関連する複数の先行研究を整理する能力を身につけること、とする。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	10	ゼミへの貢献度
小テスト		
レポート	40	研究テーマ・「問い」の設定、先行研究の整理
定期試験		
その他	50	パワポによるプレゼンと資料作成、コンペ、最終面談

事前・事後学習	
事前受講を推奨する科目	財政学Ⅰ（ただし、履修していることが専門演習参加の必須条件ではない）
	財政学Ⅱ（ただし、履修していることが専門演習参加の必須条件ではない）

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『必要に応じて講義内で指示する』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	スケジュールや教材は、社会状況や学生の人数等を考慮しながら、適宜変更することがある。

授業の計画		
1	ガイダンス	ガイダンス
2	準備	アイスブレイク
3	準備	コンペの説明、グループ形成に関する意思確認
4	準備	エクセル操作①
5	準備	エクセル操作②
6	準備	パワポ作成①
7	準備	パワポ作成②
8	コンペ	コンペ①
9	コンペ	コンペ②
10	コンペ	コンペ③
11	コンペ	コンペ④
12	コンペ	コンペ⑤
13	コンペ	コンペ⑥
14	コンペ決勝	勝ち点の高い上位2グループによるコンペ決勝
15	小括	まとめ
16	秋学期準備	報告グループ作り、役割決め、秋学期の形式の説明
17	4年生による模範報告	4年生の卒論報告（4年生の就職活動の状況によってはスケジュール変更の可能性あり）
18	4年生による模範報告	4年生の卒論報告（4年生の就職活動の状況によってはスケジュール変更の可能性あり）
19	リサーチクエッション報告	今後研究するテーマと問いについて報告
20	リサーチクエッション報告	今後研究するテーマと問いについて報告
21	リサーチクエッション報告	今後研究するテーマと問いについて報告
22	リサーチクエッション報告	今後研究するテーマと問いについて報告
23	リサーチクエッション報告	今後研究するテーマと問いについて報告
24	議論	リサーチクエッション報告について振り返り、ディスカッション
25	研究報告	リサーチクエッション報告での反省を踏まえた研究報告
26	研究報告	リサーチクエッション報告での反省を踏まえた研究報告
27	研究報告	リサーチクエッション報告での反省を踏まえた研究報告
28	課題提出	最終面談シートの提出
29	面談	最終面談シートに基づく面談
30	面談	最終面談シートに基づく面談

授業科目名	専門演習Ⅰ（菅）	担当教員名	菅　正史				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習は、私たちが日常を過ごしている「都市」を対象にします。 都市の課題には、その時々の社会経済情勢や、各都市・地区に固有の状況が関係しています。このような都市の課題や解決方策を考えるには、社会の仕組みに関する「知識」だけでなく、自ら現状を分析・考察することが重要です。 本演習では、都市の現状・課題について分析・考察する能力を身につけることを目指します。春学期のはじめは、課題に取り組みながら、ワークショップやフィールド調査、グループワークやプレゼンテーション等に慣れていきます。その後は、統計指標や現地調査により、都市の現状・課題を分析・考察する課題に取り組みます。これらの課題を通じて、身近な「地区」のスケールから、俯瞰的な「都市」のスケールまで含めて、都市について考察できるようになることを目指します。演習の後半では、具体的な問題を取り上げ、提案を考える予定です。 秋学期の終わりには、4年の卒業研究に向けた文献調査に着手する予定です。
到達目標	①現地調査や統計指標などを通じて、都市の現状・課題を分析・考察できるようになる。 ②自分が調べた・考えた結果を、適切に伝えることができるようになる。 ③グループでの調査・ディスカッション・プレゼンテーションができるようになる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	100	課題の成果と、取り組み状況をもとに評価する。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	個人・グループで、各課題毎に指示する内容に取り組む。
事前受講を推奨する科目	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『各課題毎に指示する。』			

備考	人数・進捗・受講生の希望・その他の要因等により、内容を変更することがある。

授業の計画		
1	オリエンテーション	演習の進め方・注意点等について説明する。
2	イントロダクション①	人にとって「良い場所」とは何か、考える。
3	イントロダクション②	場所の「良さ」に関するフィールド調査を行う。
4	イントロダクション③	「良い場所」とは何かや、日本の都市の課題について、ワークショップを通じて考える。
5	イントロダクション④	グループ課題の講評会を行う。
6	地区の実態認識①	地区の統計指標と、良好な地区環境を保つための制度について理解する。
7	地区の実態認識②	地区の調査を通じて、様々な統計指標と地区の実態との関係を理解する。
8	地区の実態認識③	統計指標と地区関係を分析するグループ調査を行う。
9	地区の実態認識④	グループ調査の結果を発表する。
10	都市構造の分析①	地図を読み解き、都市の構造を考える。
11	都市構造の分析②	統計指標を用いて都市の構造を分析する。
12	都市構造の分析③	統計指標を用いて都市の構造を分析する。
13	地区の現状と課題①	統計指標と現地調査の両方を用いて、対象地区の現状と課題を分析する。
14	地区の現状と課題②	統計指標と現地調査の両方を用いて、対象地区の現状と課題を分析する。
15	地区の現状と課題③	グループ調査の結果を発表する。
16	秋学期の説明	秋学期の進め方を説明する。
17	都市の課題①	日本の都市・地域の課題について、文献を通じて考える。
18	都市の課題②	日本の都市・地域の課題について、文献を通じて考える。
19	都市の課題③	日本の都市・地域の課題について、文献を通じて考える。
20	都市の課題④	文献研究の講評会を行う。
21	政策提案の検討①	都市の視点からみた、課題対象地区の位置づけを考える。
22	政策提案の検討②	フィールド調査を通じて、対象地区の状況を把握する。
23	政策提案の検討③	対象地区の現状・課題を整理する。
24	政策提案の検討④	調査・分析結果をふまえて、都市・地区の政策提案を考える。
25	政策提案の検討⑤	グループ課題の講評会を行う。
26	研究論文の読解	卒業研究に向けて、研究論文とはどのようなものかを理解する。
27	個人研究発表①	個人研究の発表会を行う。
28	個人研究発表②	個人研究の発表会を行う。
29	個人研究発表③	個人研究の発表会を行う。
30	まとめ	全体のまとめを行う。

授業科目名	専門演習Ⅰ（杉浦）	担当教員名	杉浦　勝章				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	産業、雇用、福祉、環境など、地域が抱える様々な問題を解決する手段が地域政策である。地域政策は単に市役所や県庁が行っているというだけでなく、国の政策からも大きな影響を受けている。専門演習Ⅰでは、地域の直面している問題を理解するとともに、地域政策がどのような仕組みで展開され、機能しているのかを学ぶ。 具体的には、地域政策に関するテキストを輪読形式で学習する。毎回、報告者を指定し、担当箇所について報告してもらった後、ディスカッションを行う。また、学期末には、各人の興味のあるテーマに関するレポートの提出を求める。
到達目標	地域が抱えている問題を理解し、それに対してどのような政策が実施されているかを理解する。あわせて、社会に出た後に必要となる、プレゼンテーションやディスカッションの能力、文章力などを身につけることを目的とする。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	90	
	小テスト		
	レポート	10	
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	教科書の予習は必須となる。また、関連する分野の動向をテレビや新聞などで見ておいてもらいたい。

事前受講を推奨する科目		

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は講義の中で指定する』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	2023年度の教科書は、①山﨑朗ほか『地域政策』中央経済社、②土屋純『地理学で読み解く流通と消費』ベレ出版などを使用した。２冊目以降は参加者と協議のうえ決定する。

授業の計画		
1	演習の概要説明	授業の進め方、スケジュール等について
2	プレゼンとディスカッションの技法	レジュメの作り方、発表の方法、新聞の読み方等
3	テキスト発表	テキスト発表
4	テキスト発表	テキスト発表
5	テキスト発表	テキスト発表
6	テキスト発表	テキスト発表
7	テキスト発表	テキスト発表
8	テキスト発表	テキスト発表
9	テキスト発表	テキスト発表
10	テキスト発表	テキスト発表
11	テキスト発表	テキスト発表
12	テキスト発表	テキスト発表
13	テキスト発表	テキスト発表
14	テキスト発表	テキスト発表
15	テキスト発表	テキスト発表
16	夏休みの課題の発表	夏休みの課題の発表
17	テキスト発表	テキスト発表
18	テキスト発表	テキスト発表
19	テキスト発表	テキスト発表
20	テキスト発表	テキスト発表
21	テキスト発表	テキスト発表
22	テキスト発表	テキスト発表
23	テキスト発表	テキスト発表
24	テキスト発表	テキスト発表
25	テキスト発表	テキスト発表
26	テキスト発表	テキスト発表
27	テキスト発表	テキスト発表
28	テキスト発表	テキスト発表
29	テキスト発表	テキスト発表
30	就職活動に向けての取組	就職活動に向けての取組

授業科目名	専門演習Ⅰ（関野）	担当教員名	関野　秀明				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	テーマは「アベなきアベ政治、アベなきアベノミクスを批判的に検証し、日本国憲法を活かした新しい平和・福祉国家を展望する」です「量的金融緩和はなぜ賃金・雇用を改善できないまま円安インフレに陥ったのか」「ブラック企業、ワーキング・プアの蔓延と社会保障バッシングはどこでつながっているか」「働き方改革はなぜ長時間過密労働をなくせないのか」「TPPや『成長戦略』の推進と海外への自衛隊派兵・集団的自衛権発動はどう関係しているのか」「内需、賃金主導、社会保障重視の新しい福祉国家は可能か」「なぜ社会保障改革と医療崩壊が同時に進むのか」「なぜ不動産バブルと住まいの貧困が同時に進むのか」「インフレ対策・利上げとインフレ放置・景気対策のどちらが正しいのか」等勉強します。現代の世界の大局的な流れを認識し、働く自分と仲間を守る見識を育てるゼミにしましょう。
到達目標	教員と学生が落ち着いて読書しゆったりと語り合う、知的で居心地の良い空間と時間を協力して作り出すことを目標とします。教員も学生も互いの考え方を尊重して強く否定せず、「なぜ考えが異なるのか」の理由を相互に理解することを目標とします。ゼミとしてのチームワークをお互い大切に、お互い礼儀正しく接することを目標とします。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	50	
小テスト		
レポート	50	
定期試験		
その他		

事前・事後学習	学術研究書を毎回10ページ程度は読み進めます。報告者2名が報告書（A4判2枚）を作成します。全員で感想や気づきを語り合うので事前に準備します。専門演習Ⅰ30回の授業で扱ったテーマの中から、専門演習Ⅱにおける自分なりの卒業論文テーマを選び出し研究を進めます。

事前受講を推奨する科目		
	基礎演習（関野担当）	経済原論Ⅱ
	経済原論Ⅰ	現代資本主義論

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『金融危機と恐慌』	関野秀明	新日本出版社	2018年
『インフレ不況と資本論（仮）』	関野秀明	新日本出版社	2024年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	大学の判断で行う遠隔授業は、e-mailによる報告書の送受信の後、Zoomによる質問、回答のやりとりによる。g-mail(s 学籍番号@eco.shimonoseki-cu.ac.jp)で常時送受信できるように。

授業の計画		
1	ブラック企業と『資本論』(1)	1、「若者絡め取り」メカニズムとマルクス「相対的過剰人口論」
2	ブラック企業と『資本論』(2)	2、「固定残業代」制度とマルクス「時間賃金論」 3、「無限の成果要求」とマルクス「出来高賃金論」
3	貧困、生活保護叩きと『資本論』(1)	1、貧困ゆえの「生活保護バッシング」 2、非正規労働の貧困。有期労働契約法改悪 3、電機正社員13万人大リストラという貧困
4	貧困、生活保護叩きと『資本論』(2)	4、「3つの貧困」を結ぶメカニズムと資本主義的格差 5、マルクス「資本の蓄積に照応する貧困の蓄積」論
5	アベノミクスの貧困と戦争への道(1)	1、貧困の特徴　生活苦、非正規増大、正規処遇低下 2、格差の特徴　大企業・富裕層の高収益と労働者の低賃金 3、働く貧困と社会保障削減
6	アベノミクスの貧困と戦争への道(2)	4、矛盾の反動的打開　多国籍企業化と安全保障政策の転換 5、『資本論草稿』における世界市場開拓論。恐慌と世界市場論。
7	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(1)	1、アベノミクスの不況脱却策と現実 2、アベノミクス「３本の矢」と金融バブルの形成
8	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(2)	3、バブルとは何かーマルクス「資本の過多と過剰生産の相互促進論」
9	アベノミクスの失敗と暴走(1)	1、繰り返される「異次元の金融緩和」の失敗 2、「金融緩和」から「成長戦略」待望への暴走
10	アベノミクスの失敗と暴走(2)	3、アベノミクス・バブル待望論と『資本論』第二部「バブルの論理」
11	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(1)	1、「成長戦略」の欺瞞性 2、「欺瞞性」の原因。株価・株主資本主義の台頭 3、アベノミクス「欺瞞性」の限界
12	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(2)	4、「株主資本主義」の本質。『資本論』第三部「バブルの論理」と「株式資本」論。
13	リーマン・ショック。発達したバブル(1)	1、ITバブル崩壊、2001年不況と住宅関連バブル 2、米国「新型」住宅関連バブル。そのメカニズム
14	リーマン・ショック。発達したバブル(2)	3、米国住宅関連バブルの崩壊。そのメカニズム
15	リーマン・ショック。発達したバブル(3)	4、住宅関連バブル崩壊と「過剰生産恐慌」 マルクス「金融危機と結合した過剰生産恐慌」論
16	ポスト新自由主義社会の展望(1)	１、コロナ危機＝アベノミクス「複合不況」と金融バブル誘導策 ２、マルクス『資本論』第二部第一草稿「恐慌の運動論」に見る「バブルの論理」
17	ポスト新自由主義社会の展望(2)	3、ポスト新自由主義社会の展望－『資本論』第一部「資本主義の必然的没落の諸条件」
18	不動産バブルと住まいの貧困(1)	１、アベノミクス不動産バブル誘導政策。3つの仕組みと住まいの貧困
19	不動産バブルと住まいの貧困(2)	2、『資本論』第二部第二篇「不動産バブルの論理」から考える 3、『資本論』第三部「地代、土地価格と架空資本の論理」から考える
20	アベノミクス通商政策の三つの性格(1)	1、アベノミクス通商政策の対米従属的戦略と欺瞞的戦術 2、マルクスの世界市場論
21	アベノミクス通商政策の三つの性格(2)	３、信用と世界市場による「架空の需要」形成 4、信用主義から重金主義への転化と「架空の需要」崩壊
22	『インフレ不況』と『資本論』(1)	１、アベノミクス「インフレ不況」の現実と行き詰り。
23	『インフレ不況』と『資本論』(2)	2、マルクスの「バブルの論理」と中央銀行信用、インフレーション 3、アベノミクス「インフレ不況」からの脱却
24	最低賃金1500円と賃金主導型成長(1)	１、低賃金・長期停滞の現状と最賃全国一律1500円の意義
25	最低賃金1500円と賃金主導型成長(2)	２、最低賃金全国一律1500円実現の方法－必要な中小企業支援策と財源－
26	少子化を克服する新福祉国家（1）	1、少子化の原因（1）社会保障の貧困と消費税
27	少子化を克服する新福祉国家（2）	２、少子化の原因（2）「働き方改革」＝「働く貧困の増加」
28	少子化を克服する新福祉国家（3）	３、「賃金主導型経済成長」と「新しい福祉国家」を支える財源論
29	少子化を克服する新福祉国家（4）	4、労働者階級の再生産を可能にする賃金と「資本主義的生産様式に固有な人口法則」
30	専門演習Ⅱと卒業論文研究についての説明	春学期のテーマ設定ゼミ、故人報告ゼミ、夏季休講期間の卒論研究ノートづくり、秋学期の故人報告、中間原稿執筆について。

授業科目名	専門演習Ⅰ（竹内）	担当教員名	竹内　裕二				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	「地域活性化ゼミ」 このゼミでは、次に示す３つの柱を軸に理論的・実証的に地域活性化の基礎的な研究手法を学ぶことを目的としている。 ①文献精読：文献を精読し、知識・方法、論文の書き方を学ぶ。 ②地域分析：地域分析の手法を習得する。 ③フィールドワーク：現場を訪れ、実態を把握する。 このゼミのテーマとして、市民活動を中心に地域経済や社会に関連する事柄を取り扱う。 学外でのフィールドワーク調査を授業の一環として実施する。フィールドワークなどのゼミの実践的な諸活動へ主体的に取り組む学生の受講を期待する。 授業の構成上、シラバス内容が進捗状況に応じて変更する場合がある。この点を了承していただきたい。
到達目標	・文献の読み方、まとめ方を学び、内容の趣旨を的確に報告する力を習得する。 ・地域活動の調査を行うための手法、結果の分析・まとめ方を習得する。 ・レポート課題を執筆する。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30	授業への参加意欲・発言
	小テスト		
	レポート	20	
	定期試験		
	その他	50	フィールドワークへの参加

事前・事後学習	常日頃から地域活性化に関する時事問題について関心を持ち、受講生自身の学習ヒントにしていく学習姿勢を持つ。 フィールドワークや結果分析の授業後には、課題を期日までに提出すること。 常日頃から地域社会に関心を持ち報告内容に活かすこと。

事前受講を推奨する科目		
	地域論	中小企業論
	地域産業論	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『下関市立大学　学びのハンドブック』			
	『地域メンテナンス論』	竹内裕二	晃洋書房	2018

備考	①授業形態：対面講義。 ②授業実施の手段：基本的にスクール形式による講義 ③質疑応答意見交換の方法：直接型意見交換方法 ④コンテンツ配信日時：特になし ⑤受講したとみなす条件：毎回の講義で出席を取る。 常に新聞スクラップ等、自主的に社会情勢を把握のこと。

授業の計画		
1	はじめに	イントロダクション：本演習概要の説明 グループづくり
2	テーマ選定と目的設定（1）	テーマ選定と研究目的の設定を行う。それに伴う情報収集方法と視点について解説
3	文献調査と研究の位置づけ	研究目的に沿うた文献調査を行う。 既往研究と受講生自身の研究目的との研究の位置づけを明らかにする。
4	研究方法を考える	研究方法とは何かを確認する。その上で、受講生自身の研究方法を選定する。
5	現地調査（1）	フィールドワークによる調査（1）
6	現地調査（2）	フィールドワークによる調査（2）
7	現地調査（3）	フィールドワークによる調査（3）
8	現地調査（4）	フィールドワークによる調査（4）
9	調査結果の検証（1）	現地調査結果を基に授業（1）。
10	調査結果の検証（2）	現地調査結果を基に授業（2）。
11	調査結果の検証（3）	現地調査結果を基に授業（3）。
12	調査結果の検証（4）	現地調査結果を基に授業（4）。
13	報告力の育成（1）	前回まで行ったフィールドワークの結果を基にしたワークショップ形式による授業を行う。 （テーマに沿った討論を行う【プレゼン能力向上】）
14	報告力の育成（2）	前回まで行ったフィールドワークの結果を基にしたワークショップ形式による授業を行う。 （テーマに沿った討論を行う【プレゼン能力向上】）
15	ゼミ旅行	専門演習Ｉの課題に沿った地域を訪れ、見聞を広げる。
16	テーマ選定と目的設定（2）	新たなテーマ選定と研究目的の設定を行う。 それに伴う情報収集方法について、受講生自身の研究計画書を作成する。
17	文献調査	研究目的に沿うた文献調査を行う。
18	研究の位置づけ	既往研究と受講生自身の研究目的との研究の位置づけを明らかにする。
19	研究方法を考える	受講生自身の研究方法を明確にし、受講生自身の研究方法の道筋を文章化する。
20	現地調査（1）	フィールドワークによる調査（1）
21	現地調査（2）	フィールドワークによる調査（2）
22	現地調査（3）	フィールドワークによる調査（3）
23	現地調査（4）	フィールドワークによる調査（4）
24	調査結果の検証（1）	現地調査結果を基に授業（1）。
25	調査結果の検証（2）	現地調査結果を基に授業（2）。
26	調査結果の検証（3）	現地調査結果を基に授業（3）。
27	調査結果の検証（4）	現地調査結果を基に授業（4）。
28	報告力の育成（1）	報告書を作成し、その内容について発表。
29	報告力の育成（2）	報告書を作成し、その内容について発表。
30	後期総括	これまで本講義で学んだことについて振り返り、今後の卒業研究のあり方について確認をする。

授業科目名	専門演習Ⅰ（谷口）	担当教員名	谷口　弘一				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	友人・教師・家族など身近な対人関係に起因するストレスフルな出来事は、個人の精神的健康に対して大きな否定的影響を及ぼす。その一方で、そうした身近な対人関係は、個人が心理的負担や苦痛を乗り越える際の助けともなる。本演習では、対人関係と適応に関連する心理学的諸課題について、受講生各自が興味関心を持つ論文を選択して読み、内容をレジュメにまとめて発表する。発表の際には、質疑応答ならびに全体討論を行う。その後、購読・発表・討論から得られた研究知見や関連知識に基づき、卒業論文で取り組むべき新たな研究課題を各自で設定する。以上の一連の過程を通して、研究論文の正確な理解に必要となる読解力、卒業論文の作成に必要となる文章表現力や批判的・創造的思考力を修得することを本演習の目的とする。
到達目標	心理学研究論文の内容を具体的に説明できる。心理学研究論文の内容について批判的に議論することができる。卒業論文で取り組むべき新たな研究課題を設定することができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	80	発表・討論への貢献
小テスト		
レポート	20	研究計画（研究の背景・動機・目的など）
定期試験		
その他		この他に、授業で募集する実験や調査などへの参加による学習、もしくはそれに替わる課題なども評価に加味する。合格基準は全体評価の60%

事前・事後学習	発表者は、数多くの情報源に当たり、論文内容を十分に理解した上で、レジュメを作成すること。また、PowerPoint（Windows）やKeynote（Mac）を用いて発表スライドを準備し、効果的な発表を行うこと。

事前受講を推奨する科目	基礎演習（谷口）	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『心理学研究』『教育心理学研究』			
『社会心理学研究』『実験社会心理学研究』			
『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』			

備考	本演習を履修する学生は、「基礎演習（谷口）」を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。

授業の計画		
1	オリエンテーション	心理学関連雑誌の紹介、論文検索方法の説明、レジュメ・スライド作成方法の解説
2	文献講読・討論（心理学全般）	『心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
3	文献講読・討論（心理学全般）	『心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
4	文献講読・討論（心理学全般）	『心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
5	文献講読・討論（心理学全般）	『心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
6	文献講読・討論（心理学全般）	『心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
7	文献講読・討論（心理学全般）	『心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
8	文献講読・討論（社会心理学）	『社会心理学』『実験社会心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
9	文献講読・討論（社会心理学）	『社会心理学』『実験社会心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
10	文献講読・討論（社会心理学）	『社会心理学』『実験社会心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
11	文献講読・討論（社会心理学）	『社会心理学』『実験社会心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
12	文献講読・討論（社会心理学）	『社会心理学』『実験社会心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
13	文献講読・討論（社会心理学）	『社会心理学』『実験社会心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
14	文献講読・討論（教育心理学）	『教育心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
15	文献講読・討論（教育心理学）	『教育心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
16	文献講読・討論（教育心理学）	『教育心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
17	文献講読・討論（教育心理学）	『教育心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
18	文献講読・討論（教育心理学）	『教育心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
19	文献講読・討論（教育心理学）	『教育心理学研究』に掲載された論文の講読・討論
20	文献講読・討論（臨床心理学）	『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』に掲載された論文の講読・討論
21	文献講読・討論（臨床心理学）	『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』に掲載された論文の講読・討論
22	文献講読・討論（臨床心理学）	『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』に掲載された論文の講読・討論
23	文献講読・討論（臨床心理学）	『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』に掲載された論文の講読・討論
24	文献講読・討論（臨床心理学）	『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』に掲載された論文の講読・討論
25	文献講読・討論（臨床心理学）	『カウンセリング研究』『パーソナリティ研究』に掲載された論文の講読・討論
26	課題設定・討論	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
27	課題設定・討論	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
28	課題設定・討論	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
29	課題設定・討論	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論
30	課題設定・討論	卒業論文で取り組むべき新たな研究課題の設定・討論

授業科目名	専門演習Ⅰ（鶴沢）	担当教員名	鶴沢　真				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習では、金融やファイナンスに関連する幅広いテーマについて、研究テーマを探り、調査と分析が行える能力を養うとともに、ビジネスにおける実践（実戦）的な能力を身に着けてもらうことを目指します 前半は、株式投資や企業分析に関するグループワークを中心とする。後半は、それぞれのテーマに応じた調査とデータを活用した実証分析が行えるようなトレーニングを行っていく。金融に関する理論的な基礎を理解したうえで、エビデンスにもとづいて自らの考え方を整理し、他人へわかりやすい説明ができるようになることが望まれる
到達目標	(1)自らの研究テーマを探すことができるようになる （他の人も興味を示すテーマが望ましい） (2)説得力のある調査とデータを利用した実証分析が出来るようになる (3)筋道を立てて構成され、論理的な文章を書けるようになる (4)効果的なグループワークを行えるようになる （チームビルディング、リーダーシップ、効率的な役割分担）

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	50%	
小テスト		
レポート	50%	
定期試験		
その他		

事前・事後学習	・Google Classroomを利用します ・学生自身による発表を中心に進めるため、事前の準備が求められます ・グループワークでは、グループ単位での事前の予習や準備が必要な週もあります

事前受講を推奨する科目		
	金融論Ⅰ	計量経済学
	金融論Ⅱ	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『やさしい株式投資 第2版』	日本経済新聞社	日経文庫	2017

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			
『テキスト金融論 第2版』	堀江康熙・有岡律子・森祐司	新世社	2021
『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』	伊藤 公一朗	光文社新書	2017

備考	・この授業は、金融機関での実務経験のある教員が行う授業です。

授業の計画		
1	イントロダクション・自己紹介	演習内容の概要と進め方 グループ分け
2	株式投資と企業分析の基礎(1)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
3	株式投資と企業分析の基礎(2)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
4	株式投資と企業分析の基礎(3)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
5	株式投資と企業分析の基礎(4)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
6	株式投資と企業分析の基礎(5)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
7	株式投資と企業分析の基礎(6)	『やさしい株式投資 第2版』、他企業分析資料
8	株式投資シミュレーションと企業分析(1)	グループワーク
9	株式投資シミュレーションと企業分析(2)	グループワーク
10	株式投資シミュレーションと企業分析(3)	グループワーク
11	株式投資シミュレーションと企業分析(4)	グループワーク
12	株式投資シミュレーションと企業分析(5)	グループワーク
13	株式投資シミュレーションと企業分析(6)	グループワーク
14	株式投資シミュレーションと企業分析(7)	グループワーク
15	株式投資シミュレーションと企業分析(8)	グループワーク
16	後期のイントロダクション	後期演習内容の概要と進め方
17	実証分析(1)	調査の手法とデータを利用した実証分析
18	実証分析(2)	調査の手法とデータを利用した実証分析
19	実証分析(3)	調査の手法とデータを利用した実証分析
20	実証分析(4)	調査の手法とデータを利用した実証分析
21	実証分析(5)	調査の手法とデータを利用した実証分析
22	実証分析(6)	調査の手法とデータを利用した実証分析
23	学外授業（フィールドワーク）	金融機関等での現場でのデータ活用の実施状況を確認し、金融に関する実践的な知識を得る。
24	テーマ別発表	(テーマ例）フリマアプリとシェアリングエコノミー
25	テーマ別発表	(テーマ例）キャッシュレス決済の進展と利用要因
26	テーマ別発表	(テーマ例）電力価格自由化の設計とインセンティブ
27	テーマ別発表	(テーマ例）銀行業のDX化の進展
28	テーマ別発表	(テーマ例）CBDC（中央銀行デジタル通貨）と暗号資産(仮想通貨)
29	テーマ別発表	(テーマ例）スタートアップファイナンスと日本のFintech企業
30	各自テーマの整理と課題	今年度の演習での活動と各自テーマの整理、次年度に向けた課題

授業科目名	専門演習Ⅰ（中上）	担当教員名	中上　裕有樹				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本専門演習では幅広く各自の興味のある研究分野の諸問題について，データサイエンス（データの科学）のアプローチによるデータのデザイン（計画）・収集・分析を通じて現象の理解・問題解決・価値創造に関する実証的研究に向けた卒業論文に必要となる基礎力を身につける．先行研究の調査・データ解析法の実践などを踏まえて各自が興味を持っている分野で研究テーマを選定し，研究アウトラインを作成していく． 指導教員の専門はデータサイエンス・統計学・生物統計学であるが，経済・経営・商学・サービス科学データや製品デザインの向上などに関してデータを中心に物語る研究内容であれば幅広く対応可能とする．またデータ解析の方法論・理論的研究に関する内容でも対応可能とする．
到達目標	・研究室の仲間を大切にする． ・自分の研究課題と研究計画について自分の言葉で明確に説明できる． ・主体的に研究に取り組むことができる． ・他人の研究を理解し評価できる． ・研究アウトラインを作成できる． ・その分野の非専門家にも分かりやすく解説する力をつける． ・データサイエンスの視点による問題の発見から解決までの能力を身につける．

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	80	研究活動への取り組み
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他	20	研究アウトライン

事前・事後学習	・自主的な研究活動 ・プレゼンテーション準備
事前受講を推奨する科目	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『Rで学ぶデータサイエンス17　社会調査データ解析』	鄭躍軍・金明哲	共立出版	2011

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年

備考	・基本は大学での対面講義とする．各自PCの持参が必須となる．状況により対面以外の場合の形態は，Zoom等による同時双方向型とする． ・作成された研究アウトラインなどに剽窃とみなす部分がある場合は厳しく対応する． ・内容を調整することがある．

授業の計画		
1	オリエンテーション	導入
2	自己紹介	各自の自己紹介と興味のある研究分野についての紹介
3	自己紹介	各自の自己紹介と興味のある研究分野についての紹介
4	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	基本操作
5	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	データの特徴
6	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	標本抽出
7	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	データの構造
8	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	データの加工
9	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	記述統計（量的データ）
10	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	記述統計（質的データ）
11	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	量的変数の関連分析
12	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	質的変数の関連分析
13	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	仮説検定（量的データ）
14	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	分散分析
15	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	仮説検定（質的データ）
16	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	予測の多次元データ解析法（量的データ）
17	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	予測の多次元データ解析法（量的データ）
18	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	予測の多次元データ解析法（質的データ）
19	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	予測の多次元データ解析法（質的データ）
20	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	予測の多次元データ解析法（質的データ）
21	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	分類の多次元データ解析法（量的データ）
22	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	分類の多次元データ解析法（量的データ）
23	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	分類の多次元データ解析法（量的データ）
24	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	分類の多次元データ解析法（質的データ）
25	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	分類の多次元データ解析法（質的データ）
26	論文輪読・プレゼン・データ解析実践・相談	統計的機械学習法
27	研究アウトライン作成に向けて	プレゼンテーション・ディスカッション 各自が興味を持っている研究分野の論文を輪読しながら，問題点を探る
28	研究アウトライン作成に向けて	プレゼンテーション・ディスカッション 各自が興味を持っている研究分野の論文を輪読しながら，問題点を探る
29	研究アウトライン準備	専門演習IIに向けた研究のアウトラインを作成する
30	研究アウトライン準備	専門演習IIに向けた研究のアウトラインを作成する

授業科目名	専門演習Ⅰ（中川）	担当教員名	中川　圭輔				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習のテーマは、「経営倫理（＋αで日韓）」とする。春学期は、①受講生と共に経営倫理に関するテキストを輪読する。②企業経営に関する時事ネタを簡単に報告する。秋学期は、①受講生が経営学の範囲内でテーマを決め、順次、個人報告を進める。②学期末に、中間報告の内容をベースとした簡易レポートを提出する。なお、夏季休業中に簡単な業界研究課題（就職活動の業界研究を兼ねた課題）に取り組んでいただき、秋学期に発表してもらう。 〈付記〉 本演習は経営倫理がメインテーマではあるが、担当教員は日韓比較研究にも携わってきたため、日韓の企業経営に関するテーマで研究し、4年次の卒論を完成させたい方も歓迎する（個別に相談していただければ、随時対応可）。
到達目標	経営学の範囲内で、ゼミ生が自由にテーマを設定し、自説を唱えられるよう適宜研鑽していく。また、ゼミ活動において、文章力、プレゼン力、質疑応答力、チームワーク、司会進行力（場回し力）、時間管理力、議事録作成力などの一連の社会人スキルの向上を目指す。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	70	演習への関与度（出席回数3分の2以上、積極的な発言、報告と司会担当等）
小テスト		
レポート	30	学期末に提出する簡易レポート（1,000字程度）
定期試験		
その他		

事前・事後学習	事前学習として、次回輪読する教科書の該当箇所を一読し、皆で議論したい点や疑問点を明らかにしておくこと。なお、報告担当者はレジュメを作成し、報告に向けた準備を万全にしてくること。 事後学習として、配布されたレジュメを見直し、学んだ内容を復習すること。

事前受講を推奨する科目

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『理論とケースで学ぶ企業倫理入門』	高浦康有、藤野真也編	白桃書房	2022年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年

備考	毎時のゼミ運営は学生主導で進める（報告者が司会者を兼務する）。 なお、欠席や遅刻をした場合の理由は特段問わないが、報告担当日に報告を怠った場合は減点措置を講じるので受講生は注意のこと。

授業の計画		
1	オリエンテーション	春・秋学期予定表の提示、毎時の演習の進め方を確認、指定教科書のレジュメ担当箇所の割り当て等。
2	指定教科書の概要報告①	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
3	指定教科書の概要報告②	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
4	指定教科書の概要報告③	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
5	指定教科書の概要報告④	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
6	指定教科書の概要報告⑤	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
7	指定教科書の概要報告⑥	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
8	指定教科書の概要報告⑦	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
9	指定教科書の概要報告⑧	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
10	指定教科書の概要報告⑨	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
11	指定教科書の概要報告⑩	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
12	指定教科書の概要報告⑪	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
13	指定教科書の概要報告⑫	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
14	指定教科書の概要報告⑬	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
15	指定教科書の概要報告⑭	前半は予め分担した章の概要を報告し、内容に関して意見交換をする。 後半は企業経営に関する時事ネタを報告する。
16	簡易レポートのテーマの概要報告	前半は秋学期の予定を確認した後、各自の担当日を割り当てる。 後半は簡易レポートのテーマの概要を報告する。
17	夏季休業中課題の成果報告①	夏季休業中課題の成果概要を報告し、内容について質疑応答をする。
18	夏季休業中課題の成果報告②	夏季休業中課題の成果概要を報告し、内容について質疑応答をする。
19	夏季休業中課題の成果報告③	夏季休業中課題の成果概要を報告し、内容について質疑応答をする。
20	受講生の中間報告①	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
21	受講生の中間報告②	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
22	受講生の中間報告③	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
23	受講生の中間報告④	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
24	受講生の中間報告⑤	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
25	受講生の中間報告⑥	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
26	受講生の中間報告⑦	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
27	受講生の中間報告⑧	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
28	受講生の中間報告⑨	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
29	受講生の中間報告⑩	受講生の中間報告を実施し、内容に関して質疑応答を行う。
30	まとめ－論文発表会	ほぼ完成した受講生各自の簡易レポートの概要を報告する。

授業科目名	専門演習Ⅰ（長濱）	担当教員名	長濱　幸一				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	(テーマ) 西洋経済史・西洋史のゼミです。このゼミは「現代と過去の対話」を大きなテーマとして掲げています。2023年度は災害の歴史と、参加者の希望に応じて「大気汚染」「水道」「LGBTQ」「食べもの」の中から一つテーマを選択して研究をしていく予定です。 (ゼミの進め方) 春学期は文献講読を中心にして、「まとめる」「発表する」「質問する」といった基本的な学びのパターンを修得してもらいます。その後、グループで研究を進めていくことにします。また外国史のゼミですので、英語の文献講読にも取り組む予定です。秋学期はグループ研究と並行しながら卒論の準備作業を進めてもらいます。 (その他) 大学内の机上の学問を大事にすることに加えて、大学外の活動も取り組んでみたいと思っています。ゼミ研修や他大学との交流などは、皆さんを大きく成長させます。多少の出費が必要になると思われますが、積極的に参加してください。また大学は主体的に学ぶところという意識も持っていてください。
到達目標	1.歴史的視野(長期的な視野)から特定の問題を考察することができるようになる 2.講読文献の意図や他者の意見を適切に理解し、まとめることができるようになる 3.自分の見解を適切に表現できるようになる 4.英語文献に触れ、知的好奇心を高めることができる 5.大学で学んだという自信を持つことができる 以上のような到達目標を掲げたいと思います。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	50	ゼミへの参加とパフォーマンス
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他	50	個人およびグループ研究の実施

事前・事後学習	特にグループ研究では授業時間以外に議論してもらう必要があります。勉強量の多いゼミであることは間違いありません。その分、成長を実感してもらえると考えています。

事前受講を推奨する科目		
	西洋史	
	西洋経済史	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は特に指定しません』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	＊上級生から学ぶことも多いため、3、4年生合同のゼミとしたいと考えています。 ＊学外研修や他大学との合同ゼミなどを実施します。費用が発生するため、留意してください。 ＊事前の説明会の内容を確認してください ＊大学での学びでも大事な活動だと考えています。主体的に、熱意をもって参加してくださることを期待しています。 ＊感染症の状況により計画が大きく変わる可能性があります。

授業の計画		
1	ガイダンス	1年間のスケジュールの確認、受講者の自己紹介など
2	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
3	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
4	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
5	基礎文献の講読・議論	ゼミの基本的な知識となる基礎文献を講読・議論し、理解を深める
6	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
7	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
8	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
9	専門文献の講読・議論	基礎文献を踏まえて、より専門性の高い文献を講読し、理解を深めていく
10	学外研修	ゼミの学びに関係する場所を訪問し、机上の学びを補完する
11	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
12	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
13	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
14	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
15	ゼミ前半の振り返り	半年間の学びを振り返り、夏季休暇中の取り組みについて確認する
16	秋学期のガイダンス	秋学期のスケジュールを確認し、グループ研究などの取り組むべき課題を共有する
17	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
18	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
19	英文献の講読・議論	西洋経済史・西洋史に関わる英論文・文献の講読にも挑戦したい。
20	グループ研究報告	グループでテーマを設定し、他大学との合同報告会などに向けた報告を作成していく
21	グループ研究報告	グループでテーマを設定し、他大学との合同報告会などに向けた報告を作成していく
22	グループ研究報告	グループでテーマを設定し、他大学との合同報告会などに向けた報告を作成していく
23	学内合同報告会	下関市立大学で学ぶ他のゼミと合同で報告会を行い、ここまでの学びの成果を示す
24	他大学との合同報告会	グループ研究の成果を発表するとともに、他大学の活動内容についての理解を深める
25	他大学との合同報告会	グループ研究の成果を発表するとともに、他大学の活動内容についての理解を深める
26	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
27	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
28	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
29	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する
30	総括	1年間の学びを振り返る

授業科目名	専門演習Ⅰ（西田）	担当教員名	西田　郁子				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	【本演習のテーマ：流通システム、ビジネスシステム】 日本の産業社会では、それぞれの産業固有の問題に対応するため、メーカーや取引関係にある小売企業が協力して様々なビジネスシステムがつくり出されてきました。本演習では、顧客に製品を届けるまでの事業の仕組みに注目します。 まず、グループワークにより企業の戦略とチャネル選択の関係について考えます。 さらに、文献の輪読をつうじて、関連分野（垂直統合型ビジネスモデル、プラットフォームビジネスなど）ごとに代表的な理論枠組みや特徴的な企業の取組について把握し、他者に説明できるように知識を深めます。 秋学期には、それまでに得られた知見をもとにして、卒業論文で取り組む新たな研究課題を各自で検討します。
到達目標	・文献を読み、要約を作成し、（その文献を読んだことのない他者にわかりやすく）報告できるようになる ・経営学の概念（キーワード）を用いて、企業活動を分析できるようになる ・グループディスカッションをつうじた、コミュニケーション能力の向上 ・就活を意識し、社会情勢の変化にアンテナを高くはれるようになる

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	80	演習内での報告内容やディスカッションへの貢献度・積極性
小テスト		
レポート	20	
定期試験		
その他		

事前・事後学習	指定された文献の輪読について、発表者は十分な下調べを行い、文献内容を十分に理解したうえで、レジュメを作成すること。発表者以外も文献内容を十分に理解し、ディスカッションに積極的に参加できるよう準備すること。 （準備と復習あわせて毎回4時間以上）
事前受講を推奨する科目	流通論 経営学入門

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『教科書は指定しない』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『日本のビジネスシステム』	加護野忠男・山田幸三	有斐閣	2016
『1からの流通システム』	崔 相鐵 ・岸本 徹也	碩学舎	2018
『ケースに学ぶ経営学　第3版』	東北大学経営学グループ	有斐閣	2019

備考	輪読に使用する文献の内容は、ビジネスシステムに関連する分野（垂直統合型ビジネスモデル、プラットフォームビジネス、戦略的提携、サピライチェーンマネジメント、国際化のマネジメントなど）から、受講生の関心事項に応じ選定する予定です。 演習内容などは受講生の希望などを踏まえて適宜変更することがあります。 授業計画は進捗状況に応じて変更することがあります。 夏休み等に学外授業を実施することがあります。

授業の計画		
1	ガイダンス	スケジュールの説明など
2	ゼミ報告について	文献の要旨の作成方法
3	グループワーク	生鮮食品の流通チャネル調査（1）
4	グループワーク	生鮮食品の流通チャネル調査（2）
5	グループワーク	生鮮食品の流通チャネル調査（3）
6	グループワークのまとめ	生鮮食品の流通チャネル調査（4）
7	グループワークのまとめ	生鮮食品の流通チャネル調査（5）
8	文献の輪読_1回目（1）	各自の関心のある分野の文献選択、グループ編成
9	文献の輪読_1回目（2）	発表・質疑
10	文献の輪読_1回目（3）	発表・質疑
11	文献の輪読_2回目（1）	各自の関心のある分野の文献選択、グループ編成
12	文献の輪読_2回目（2）	発表・質疑
13	文献の輪読_2回目（3）	発表・質疑
14	学外授業(予定)	地域の産業の現場を体験する
15	就活のスタートに向けて	夏休み中の活動について
16	後半ガイダンス	夏休み期間中のふりかえり、スケジュールの説明など
17	卒論テーマの検討(1)	卒論で取り上げたい企業の検討・発表
18	卒論テーマの検討(2)	卒論で取り上げたい企業の検討・発表
19	文献の輪読_3回目（1）	各自の関心のある分野の文献選択、グループ編成
20	文献の輪読_3回目（2）	発表・質疑
21	文献の輪読_3回目（3）	発表・質疑
22	グループディスカッション（1）	会社の方針と個人のキャリアプラン
23	グループディスカッション（2）	仕事のやりがい
24	グループディスカッション（3）	権限委譲
25	卒論のテーマ検討（3）	論文とは、論文作成の作法
26	卒論のテーマ検討（4）	分析の切り口の検討
27	卒論のテーマ検討（5）	分析の切り口の検討
28	卒論のテーマ検討（6）	分析の切り口の検討
29	卒論のテーマ検討（7）	リサーチクエスチョンの設定について
30	まとめ	専門演習Ｉのまとめ

授業科目名	専門演習Ⅰ（野津）	担当教員名	野津　隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	経済学や経営学にはゲーム理論を用いる学問領域があります。ゲーム理論は人間の意思決定を分析する理論といえて、社会や経済の分析に有用なツールの一つです。本授業では教科書の輪読などを通じてゲーム理論を学ぼう。それからゲーム理論的にものごとを考えてみよう。 さて、ゲーム理論について、学び始める前で見当がつかないかもしれません。でも、ゲーム理論を用いて考えることのできる問題はたくさんありそうです。人間の意思決定を分析する理論というのだから、ゲーム理論で議論できる対象は広そうです。皆さんには興味の持てる問題を見つけてほしい。社会問題に注目するのもよいでしょう。あるいは個人的な関心事に目を向けるのもよいでしょう。価値のある問題はどこに転がっているか分かりません。偶然の出会い（セレンディピティ）を期待して、自由に問題を探そう。問題を見つけたあとは、それに挑んでください。まずは、一年間ゲーム理論を学ぼう。
到達目標	ゲーム理論の基本的な考え方を身につける。 ・よく知られたゲームについて説明できる ・ナッシュ均衡の定義や意味するところを説明できる ・ナッシュ均衡を求めることができる

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	100%	輪読は文献の内容を発表し合ったり、議論することです。これらへの取り組み姿勢を評価します。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	事前学習：輪読の発表担当者は先生になって教科書の内容を講義するつもりで準備しよう。発表担当ではない人も教科書をしっかり読んで授業に臨もう。疑問点などはメモしておいて授業内で質問しよう。 事後学習：授業内容を整理しよう。理解したつもりで実はよくわかっていなかったことがあるかもしれないし、新たな疑問が出てくるかもしれない。次回の授業で投げかけて解決を試みよう。
事前受講を推奨する科目	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ゲーム理論』	渡辺隆裕	日経文庫	2019

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『戦略的思考をどう実践するかエール大学式ゲーム理論の活用法』	A・ディキシット，B・ネイルバフ	CCCメディアハウス	2010

備考	

授業の計画		
1	イントロダクション	顔合わせ。授業の進め方などを説明する。
2	発表の心構え（基礎・発展演習の復習）	発表の仕方、資料作成について教員主導でおさらいをする
3	輪読	輪読をしながら皆でわいわいゲーム理論を学ぶ
4	輪読	同上
5	輪読	同上
6	輪読	同上
7	輪読	同上
8	輪読	同上
9	輪読	同上
10	輪読	同上
11	輪読	同上
12	輪読	同上
13	輪読	同上
14	輪読	同上
15	前期のまとめ（教員VS.受講者達）	前期の学習内容を問う問題を教員が出題するので受講者達は力を合わせてそれに答える
16	前期の復習	前期のおさらいをする
17	輪読	ゲーム理論的に考えることを意識しながら、前期に引き続いて輪読をする
18	輪読	同上
19	輪読	同上
20	輪読	同上
21	輪読	同上
22	輪読	同上
23	輪読	同上
24	輪読	同上
25	輪読	同上
26	輪読	同上
27	輪読	同上
28	輪読	同上
29	後期のまとめ（教員VS.受講者達）	後期の学習内容を問う問題を教員が出題するので受講者達は力を合わせてそれに答える
30	専門演習IIに向けて	専門演習IIでの展望をお互いに話したり、聞いたりする

授業科目名	専門演習Ⅰ（平山）	担当教員名	平山　也寸志				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習は民法学を対象とする。民法は商品を買う、家を借りる、お金の貸し借りをするなどの我々「市民」が日々の暮らしのための「消費者」としての社会生活を広く規律する法の基礎である。また、民法は、仕事をするために必要な「事業者」間取引の基礎でもある。そして、民法は、その第3編（債権編）を中心とする改正法が2020年4月から施行されている。更に、民法は、認知症高齢者等の身上監護・財産管理のための成年後見制度の基礎でもある。同制度は、成年後見制度利用促進法（2016年施行）に基づき、その利用を促進する施策が施されつつある。 本演習では、民法に関する学説・判例、社会問題等をテーマに取り上げ、検討を行う予定である。具体的には、上述のテーマ等について、グループ等で協力して調べたことをレジュメ資料等を作成して報告してもらうことを予定している。 授業には、受講生の有益な希望は反映する。なお、時代の先端を行く法学の情報が得られればそれ等も提供する予定である。
到達目標	①グループで、又は、各自で、報告テーマを選択し、テーマに関する文献を探索し、収集して読み、テーマについての検討結果をレジュメ等の資料に作成し、報告できるようにすること。 ②報告に際して、質疑応答に参加すること。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	30%	授業に参加し、質疑応答すること等。
	小テスト	0%	
	レポート	30%	夏休みの課題。
	定期試験	0%	
	その他	40%	報告の準備及び報告。

事前・事後学習	下記の事前受講の推奨科目を履修していなくても構わない。履修することが決定したら、受講前に下記参考書に掲げてある民法の概説書など（あるいは、その他、図書館所蔵の民法の概説書でもよい）を通読しておくことが望ましい。 授業開始後は、選択したテーマに関して更に、検討を進めるなどして、卒論テーマをみつけること。

事前受講を推奨する科目		
	民法総論	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『判例プラクテイス民法Ⅰ第2版』	松本恒雄ほか編	信山社	2022
	『プロセス民法講義民法Ⅰ総則』	後藤・滝沢・片山編	信山社	2020
	『改正民法［債権法］における判例法理の射程』	伊藤進監修	第1法規	2020

備考	google　classroom使用も予定している。　必要な資料（最高裁民事判例集など）はその都度、配布する。

授業の計画		
1	ガイダンス	演習の概要説明　方針の決定 テーマの設定の仕方やレジュメの作成の仕方など
2	判例の読み方	最高裁判所民事判例集の読み方
3	法律文献の探索・収集の仕方	図書館やインターネットでの文献探索・収集
4	債権法改正の概要など	2020年4月から施行されている民法（債権関係）改正の説明
5	グループ学習など①	選択テーマについての学習など
6	グループ学習など②	選択テーマについての学習など
7	グループ学習など③	選択テーマについての学習など
8	グループ学習など④	選択テーマについての学習など
9	グループ学習など⑤	選択テーマについての学習など
10	グループ学習など⑥	選択テーマについての学習など
11	グループ学習など⑦	選択テーマについての学習など
12	報告①	選択テーマについてのグループ学習等の報告
13	報告②	各選択テーマについてのグループ学習等の報告
14	報告③	選択テーマについてのグループ学習等の報告
15	まとめ	報告をおえての振り返り、秋学期に向けての課題の設定など
16	レポートの報告①	夏休みの課題の報告①
17	レポートの報告②	夏休みの課題の報告②
18	グループ学習など①	選択テーマについての学習など
19	グループ学習など②	選択テーマについての学習など
20	グループ学習など③	選択テーマについての学習など
21	グループ学習など④	選択テーマについての学習など
22	グループ学習など⑤	選択テーマについての学習など
23	グループ学習など⑥	選択テーマについての学習など
24	グループ学習など⑦	選択テーマにについて学習など
25	グループ学習など⑧	選択テーマについての学習など
26	報告①	選択テーマについてのグループ学習等の報告
27	報告②	選択テーマについてのグループ学習等の報告
28	報告③	選択テーマについてのグループ学習等の報告
29	民法に関する社会問題の検討	民法に関係する社会問題を取り上げ、全体で検討する。
30	全体のまとめ	通年の専門演習を振り返っての反省。卒論作成のガイダンスなど（テーマの選択の仕方、資料収集の仕方など）。

授業科目名	専門演習Ⅰ（松本）	担当教員名	松本　義之				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	企業・社会では数多くのコンピュータ機器・情報システムが利用されています。さらに、ChatGPTに代表される生成AIなど、これまでの常識を覆すような新しい技術も誕生し、デジタル技術の活用がこれまで以上に重要となってきています。 特にビジネス分野においては、デジタル技術を活用した新しいサービスやマーケティング手法が次々と採用されています。例えば、X(旧:Twitter)やＩｎｓｔａｇｒａｍなどのSNSを使ったマーケティング・広告配信・集客戦略、生成ＡＩを活用した様々な業務自動化・コンテンツ作成などです。これらのデジタル技術を活用した新しいサービスがビジネスでどのように利用されているのかを調べます。その中で、自分の興味があるテーマを選択し、他人に説明できるように知識を深めます。更に、そのデジタル技術にどのような可能性があるのか、今後どのようなビジネス応用が可能なのか、などを検討します。 春学期はグループ単位で、秋学期は個人単位で調査・発表・質疑を行います。
到達目標	①自分の興味があるデジタル技術を活用したサービスについて、他人に説明できる能力を身につける。 ②雑誌・図書・インターネットなどから目的の事柄を見つけ出し、自分の言葉でレジュメにまとめる。 ③他のゼミ生からの質問に対し、適切に応対することができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	100	通常平常点(40%)+発表(40%)+質疑(20%)
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他		ゼミ運営上の貢献があった場合、＋αとして加点する

事前・事後学習	発表準備・質疑対応などの事前・事後学習を要する

事前受講を推奨する科目		
	経営情報学入門	経営情報論
	コンピュータ科学	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『教科書は使用しない』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『日経コンピュータ』		日経BP社	月刊誌

備考	就職活動など、やむを得ない事情で欠席する場合は、事前に電子メールなどで連絡をする事。

授業の計画		
1	ガイダンス	演習の概要説明、スケジュールの提示など
2	自己アピール	自己紹介などを行う。
3	テーマ選定	第1回ワークショップ （調査テーマ、グループの決定）
4	発表(1)	グループ別発表・質疑応答(1)
5	発表(2)	グループ別発表・質疑応答(2)
6	発表(3)	グループ別発表・質疑応答(3)
7	発表(4)	グループ別発表・質疑応答(4)
8	発表(5)	グループ別発表・質疑応答(5)
9	テーマ選定	第2回ワークショップ （第1回とは異なるグループを編成）
10	発表(1)	グループ別発表・質疑応答(1)
11	発表(2)	グループ別発表・質疑応答(2)
12	発表(3)	グループ別発表・質疑応答(3)
13	発表(4)	グループ別発表・質疑応答(4)
14	発表(5)	グループ別発表・質疑応答(5)
15	まとめ	春学期の総括を行う。
16	テーマ選定	個人別発表のテーマ選定を行う
17	発表(1)	個人別発表・質疑応答(1)
18	発表(2)	個人別発表・質疑応答(2)
19	発表(3)	個人別発表・質疑応答(3)
20	発表(4)	個人別発表・質疑応答(4)
21	発表(5)	個人別発表・質疑応答(5)
22	発表(6)	個人別発表・質疑応答(6)
23	テーマ選定	卒業論文に向けてのテーマ選定を行う
24	発表(1)	テーマ別発表・質疑応答(1)
25	発表(2)	テーマ別発表・質疑応答(2)
26	発表(3)	テーマ別発表・質疑応答(3)
27	発表(4)	テーマ別発表・質疑応答(4)
28	発表(5)	テーマ別発表・質疑応答(5)
29	発表(6)	テーマ別発表・質疑応答(6)
30	まとめ	専門演習I全体のまとめを行う。

授業科目名	専門演習Ⅰ（水谷）	担当教員名	水谷　利亮				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	【人口減少社会の地域社会や地域づくりについて考えよう！】 　資源や人、情報の東京一極集中と地方・「田舎」での人口減少・地域の衰退が問題となっています。国の「上からの地方創生」と異なり、「地元」の視点から「内発的」な地域づくりで自治体がNPO・民間団体、コミュニティなどと協働しながら地域政策に取り組む事例もあります。そのような地域・自治体のあり方を、学生が実証的・理論的に学習・考察して、現代社会の問題を批判的に考えるための知力と視点を得ることを目的とします。 　①地域社会や地域づくり、地方自治に関するテキストをしっかりと輪読します。②参加者が興味のあるテーマごとに班･グループで研究して、他ゼミとの合同学習会で報告を行います。③県内の長門市俵山地区の地域づくりNPOや株式会社などの取り組みに注目し、土日などに2回くらい自主的なボランティアとしてフィールドワークに行く機会を提供します。 　学生たちが活発に議論・コミュニケーションすることにより、主体的に考える力と調整能力を磨くよう工夫します。
到達目標	①テキストの輪読・議論をして主体的に考える力とコミュニケーション能力を磨き、地域づくり・地方自治の基本的理解を深める。 ②グループで学習し、多様な意見をまとめて報告をする力と、議論を整理・調整する力をつけてコミュニケーション能力を高める。 ③県内の地域づくり事例を参照・分析して、地域の多様な現状と課題、可能性を考える。 ④輪読と課題報告とレポート提出などにより卒論のテーマを見つける。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	60	授業・議論への参加度
	小テスト		
	レポート	20	卒論に向けたまとめの個人レポート
	定期試験		
	その他	20	班別研究テーマ報告の内容

事前・事後学習	授業でのテキスト輪読のために事前に報告準備や該当部分の予習をして、当日積極的に議論に参加し、事後に反省・再考すること。班別研究テーマ報告のために事前に班ごとに資料を探して読んで議論して考えて、その内容をまとめたレジュメやパワーポイントなどを事前に作成し、報告し、事後に振り返ること。

事前受講を推奨する科目		
	地方自治論（３年次受講推奨）	現代政治学
	行政学	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』	小田切徳美編	岩波書店	2022年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『きみのまちに未来はあるか？』	除本 理史、 佐無田光	岩波ジュニア新書	2020年
	『いまから始める地方自治』	上田道明編	法律文化社	2018年
	『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	①授業形態：対面授業（場合によりZoomで同時双方向型） ②教科書以外に地域づくり・地方自治に関する複数の学術論文を輪読・議論 ③コンテンツ配信：レジュメ等はgoogle classroom（gc）に時間前掲示 ④授業時間外の学習にも積極的に取り組むこと ⑤教科書は各自、生協などで購入 gcには、ecoメールに招待を送るので参加手続きをして入る。 必要に応じ授業内容を周知して変更する場合あり。

授業の計画		
1	オリエンテーション	演習の概要説明、自己紹介と「他者」紹介
2	参加者の問題関心の報告	参加者が問題関心をもっている地域づくり・地域政策に関するテ ーマ・新聞記事などの報告と議論
3	教科書輪読①	第１章　新しい地域発展理論
4	教科書輪読②	第２章　新しい人材をつくる
5	教科書輪読③	第３章　新しい「しごと」をつくる
6	教科書輪読④	第４章　新しい地域内経済循環をつくる
7	教科書輪読⑤	第５章　新しいコミュニティをつくる
8	教科書輪読⑥	第６章　　新しい地域資源利用・管理をつくる
9	教科書輪読⑦	第７章　新しい人の流れをつくる
10	教科書輪読⑧	第８章　新しい再生プロセスをつくる
11	教科書輪読⑨	第９章　新しい政策をつくる
12	教科書輪読⑩	第10章　　新しい国土をつくる
13	教科書輪読⑪	終 章　　新しい農村を展望する
14	春学期のまとめ①	春学期の全体のまとめ①
15	春学期のまとめ②	春学期の全体のまとめ②
16	各自の関心テーマに関する報告①	年末のゼミ間交流会などにむけて個人の関心テーマについて報告①
17	各自の関心テーマに関する報告②	年末のゼミ間交流会などにむけて個人の関心テーマについて報告②
18	各班ごとのグループ学習と全体交流①	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流①
19	各班ごとのグループ学習と全体交流②	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流②
20	各班ごとのグループ学習と全体交流③	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流③
21	各班ごとのグループ学習と全体交流④	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流④
22	各班ごとのグループ学習と全体交流⑤	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流⑤
23	各班ごとのグループ学習と全体交流⑥	各自の関心テーマをもとに3つぐらいの班に分かれてグループ学習して、関連論文などをゼミで輪読・交流⑥
24	各班のテーマに関する研究報告①	3つぐらいの班に分かれてグループ学習した成果・研究内容の報告①
25	各班のテーマに関する研究報告②	3つぐらいの班に分かれてグループ学習した成果・研究内容の報告②
26	各班のテーマに関する研究報告③	3つぐらいの班に分かれてグループ学習した成果・研究内容の報告③
27	個人の卒業論文研究テーマの報告①	参加者の今後における卒業論文に関する研究テーマのレポート報告
28	個人の卒業論文研究テーマの報告②	参加者の今後における卒業論文に関する研究テーマのレポート報告
29	卒業論文の報告を聞く	４年生（専門演習Ⅱ）の卒業論文の報告会への参加と議論、交流
30	全体のまとめ	1年間の総括

授業科目名	専門演習Ⅰ（村田）	担当教員名	村田　和博				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	企業組織においてだけでなく、大学組織においてもリーダーや組織人としての役割を求められることがある。本演習は経営管理論を中心に、現在所属する組織、また将来所属するであろう組織で活かせる知識を学ぶ。2冊のテキストを参加者全員で討議することで、経営戦略（経営戦略の理論、経営戦略の事例など）とモチベーション（モチベーションの理論、実践家のモチベーションなど）の基礎について学ぶ。また、テキストとは別に、企業を調べ報告することで企業理解を深める機会を設ける。 授業の進め方は、担当者による企業分析の報告、担当者によるテキスト担当部分の報告、全体での討議、まとめ、の順である。 さらに、春学期と秋学期の各学期に、ゼミ内のプレゼンテーション大会を実施する。
到達目標	①経営戦略とモチベーションについて理解する。 ②著書を読み、理解し、討議する力を身につける。 ③自ら調べたことをわかりやすく説明する力を身につける。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	60	報告内容、課題の提出状況、学習に対する意欲などから総合的に評価する
	小テスト		
	レポート	40	学期末のレポートを提出
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	事前学習としてはテキストの該当する章を読んでおくこと。また、報告の際には事前に報告の準備をすること。事後学習としては期末レポートが書けるように各回の演習内容を整理しておくこと。

事前受講を推奨する科目		
	経営管理論Ⅰ	
	経営管理論Ⅱ	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『経営戦略の思考法』	沼上幹	日本経済新聞出版社	2009年
	『働くみんなのモティベーション論』	金井壽宏	日本経済新聞出版社	2016年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	テキストの報告はグループでの報告を予定している。 在庫の状況により、テキストが変わる可能性がある。

授業の計画		
1	ガイダンス	3年生と4年生の合同ゼミ、自己紹介、グループ学習
2	企業分析	企業分析の方法と報告の仕方
3	モチベーション（1）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第1章「モチベーションに持論を持つ」
4	モチベーション（2）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第2章「持論がもたらすパワー」
5	モチベーション（3）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第3章「マクレガー・ルネサンス」
6	モチベーション（4）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第4章「外発的モティベーションと内発的モティベーション」
7	モチベーション（5）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第5章１「期待理論でわかること、わからないこと」
8	モチベーション（6）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第5章２「達成動機の高いひとたち」
9	モチベーション（7）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第6章「親和動機」
10	モチベーション（8）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第7章「目標設定」
11	モチベーション（9）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第8章「自己実現」
12	モチベーション（10）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、第9章「実践家の持論」
13	プレゼンテーション（1）	モチベーションに関する課題をグループで協議する。
14	プレゼンテーション（2）	モチベーションに関する課題をグループで協議する。
15	プレゼンテーション（3）	モチベーションに関する課題の成果を報告する。
16	経営戦略論（1）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：戦略計画学派
17	経営戦略論（2）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：創発戦略学派
18	経営戦略論（3）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：ポジショニング・ビュー
19	経営政略論（4）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：リソース・ベースト・ビュー
20	経営戦略論（5）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：ゲーム論的アプローチ
21	経営政略論（6）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：顧客ダイナミクス
22	経営政略論（7）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：差別化戦略の組織的基礎
23	経営戦略論（8）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：競争を活用する戦略
24	経営戦略論（9）	報告担当者による報告とその報告に関する討議、内容：先手の連鎖シナリオ
25	プレゼンテーション（4）	経営戦略論に関する課題をグループで協議する
26	プレゼンテーション（5）	経営戦略論に関する課題をグループで協議する
27	プレゼンテーション（6）	経営戦略論に関する課題の成果を報告する
28	卒論報告会（1）	4年生による卒論報告を聴講する
29	卒論報告会（2）	4年生による卒論報告を聴講する
30	卒論報告会（3）	4年生による卒論報告を聴講する

授業科目名	専門演習Ⅰ（柳）	担当教員名	柳　純				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習では、流通・マーケティングに関してさまざまな視点から分析する能力を身につけることができるように、前半部分で決められた共通テキストの輪読を行い、後半部分ではテーマにしたがって問題解決をグループごとで行います。前半のテキスト輪読は予め報告者を決めておき、報告者に対して各自全員が質問者となりディスカッションを実践していきます。後半部分はグループに分かれて出題テーマについて調べ、プレゼンテーション形式でグループ報告を行います。その際には各自の関心がある新聞記事、Web上のデータ等を用いて活発な議論を引き出すことで成果をまとめていきます。 なお、各自の探究したい分野において当初よりテーマ設定をすることで、4年次の専門演習Ⅱにおける卒業論文の執筆につなげていきます。また、各自の情報収集力や記述能力を養う意味で、レポートの提出も課していきます。
到達目標	①課題や問題を自ら発見・探究することができるようになる。 ②レポート・レジュメ作成、論文執筆に関する力を向上させることができる。 ③プレゼンテーションを通して表現能力を習得することができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	30	演習の参加態度で評価します
小テスト		
レポート	70	提出物やレポート内容で評価します
定期試験		
その他		

事前・事後学習	事前学習として、テキストを熟読の上、レジュメ作成および報告準備を行うこと。また、メンバーも個々人で当該箇所の内容を把握し、質問の準備を行うこと。 事後学習は、報告グループの報告内容の確認と、専門用語や疑問に感じた部分を各自で調べ、整理しておくこと。

事前受講を推奨する科目		
	商学総論	マーケティング論Ⅱ
	マーケティング論Ⅰ	流通論

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『マーケティング零』	大石芳裕編	白桃書房	2015年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『日本企業のグローバル・マーケティング』	大石芳裕編	白桃書房	2009年
『1からのリテール・マネジメント』	清水信年・坂田隆文編	中央経済社	2012年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	（1）授業形態：対面授業（遠隔授業の際は同時双方向型） （2）授業実施手段：遠隔の場合はGoogle Meetによる演習形式

授業の計画		
1	春学期ガイダンス	専門演習前半の概要、成績評価・方法などの説明をする。
2	テーマ設定	各自の問題意識の確認とテーマ設定
3	報告（1）	テキスト報告およびディスカッション
4	報告（2）	テキスト報告およびディスカッション、卒論テーマの選択
5	報告（3）	テキスト報告およびディスカッション、資料収集の方法と脚注
6	報告（4）	テキスト報告およびディスカッション、論文の導入部分
7	報告（5）	テキスト報告およびディスカッション
8	テーマ報告・指導（1）	各自のテーマ報告および推敲
9	報告（6）	テキスト報告およびディスカッション
10	報告（7）	テキスト報告およびディスカッション、卒論概要の把握
11	報告（8）	テキスト報告およびディスカッション
12	報告（9）	テキスト報告およびディスカッション
13	報告（10）	テキスト報告およびディスカッション
14	テーマ報告・指導（2）	各自のテーマ報告および推敲
15	春学期の総括	春学期のまとめを行う。
16	秋学期ガイダンス	専門演習後半の概要、成績評価・方法などの説明をする。
17	テーマの確認	各自の問題意識の再確認と取り組み状況の報告
18	卒論中間報告会（1）	卒論中間報告会
19	卒論中間報告会（2）	卒論中間報告会
20	報告（11）	グループ報告およびディスカッション（課題研究①）
21	報告（12）	グループ報告およびディスカッション（課題研究②）
22	報告（13）	グループ報告およびディスカッション（課題研究③）
23	テーマ報告・指導（3）	グループ報告およびディスカッション（課題研究④）
24	報告（14）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究①）
25	報告（15）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究②）
26	報告（16）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究③）
27	報告（17）	グループ報告およびディスカッション（自由論題研究④）
28	報告会の説明と準備	卒論「はじめに」の報告会の説明とその準備
29	テーマ報告・指導（4）	各自のテーマ報告および推敲（卒論導入部分の報告会①）
30	テーマ報告・指導（5）および全体の総括	各自のテーマ報告および推敲（卒論導入部分の報告会②） 秋学期および演習全体のまとめとレポート提出の説明をする。

授業科目名	専門演習Ⅰ（藪内）	担当教員名	藪内　賢之				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本専門演習で取り扱うテーマは経営、情報、意思決定など担当教員の専門領域である経営科学と情報科学の範囲としている。 専門演習は皆が主体となって進めるべきなので、演習中は自由に発言・討論してもらいたい。そうすることで皆の研究内容をより充実したものになることを期待している。そのための論文執筆、資料作成、プレゼンテーションなどのトレーニングもあわせて行う。 なお、最終回には秋学期のまとめとして中間報告を行い、2月に4年生の卒業論文発表会を開催する。
到達目標	春学期の目標は、教科書の輪読と議論によって、自ら論点を見出せるようになることである。 秋学期は、先行研究のサーベイ、問題点の整理をすることによって、各自研究の意義、重要性を認識してもらう。これによって、論理的に考え、研究着手することを秋学期の目標とする。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	100	受講態度による総合評価
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他		

事前・事後学習	担当分の準備、当日の議論を加味して再調査した結果を次回報告する。 報告担当者は一週間以上前に資料を配布し、他の者が報告内容を理解できるようにする。また、担当者は十分な説明・議論が出来るよう関係する書籍・論文を読み、各自の報告に備えてもらいたい。報告担当でない者は、事前配付された資料を熟読し、同日の議論の準備をする。場合によっては、報告担当者が議論内容に対応できるよう協力すること。
事前受講を推奨する科目	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	①授業形態：対面授業　②授業実施の手段：対面　③質疑応答意見交換の方法：対面が難しい場合はe-mailで方法を相談する。　④コンテンツ配信日時：時間割通り　⑤受講したと見なす条件：授業に参加すること（無断欠席は失格になる）

授業の計画		
1	ガイダンス	演習の概要説明
2	教科書選定	教科書選定（各自が推薦する図書を紹介し、選定する）など
3	報告・議論(1-1)	輪読、議論
4	報告・議論(1-2)	輪読、議論
5	報告・議論(1-3)	輪読、議論
6	報告・議論(1-4)	輪読、議論
7	報告・議論(1-5)	輪読、議論
8	報告・議論(1-6)	輪読、議論
9	報告・議論(1-7)	輪読、議論
10	報告・議論(1-8)	輪読、議論
11	報告・議論(1-9)	輪読、議論
12	報告・議論(1-10)	輪読、議論
13	報告・議論(1-11)	輪読、議論
14	報告・議論(1-12)	輪読、議論
15	報告・議論(1-13)	輪読、議論、秋学期の内容説明
16	研究の進め方・研究テーマ協議	研究の進め方説明，卒業研究のテーマ協議
17	論文執筆，卒業研究のテーマ協議	論文執筆説明，，卒業研究のテーマ協議
18	報告・議論(2-1)	各自テーマで議論
19	報告・議論(2-2)	各自テーマで議論
20	報告・議論(2-3)	各自テーマで議論
21	報告・議論(2-4)	各自テーマで議論
22	報告・議論(2-5)	各自テーマで議論
23	報告・議論(2-6)	各自テーマで議論
24	報告・議論(2-7)	各自テーマで議論
25	報告・議論(2-8)	各自テーマで議論
26	報告・議論(2-9)	各自テーマで議論
27	報告・議論(2-10)	各自テーマで議論
28	報告・議論(2-11)	各自テーマで議論
29	報告・議論(2-12)	各自テーマで議論
30	成果報告	各自テーマの成果を報告する

授業科目名	専門演習Ⅰ（横山）	担当教員名	横山　寛和				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	1990年代以降，日本社会は少子高齢化・人口減少，長期雇用の動揺と所得格差の拡大，それまでの雇用慣行に最適化された社会保障の動揺など，前提条件が変化する中で求められる政策も変化している．それらを理解し，適切な処方箋を示すためには，現在の仕組みを理解するだけではなく，実態や社会経済へ及ぼす影響を，関連する資料から読み取る必要がある．そのためには，有用な理論を理解し，資料から情報を引き出す手段を習得する必要がある． そこで本演習では，政府の経済活動や経済政策，およびそれらを取り巻く社会経済環境の変化に着目し，様々な資料を用いて分析し，適切に評価するための力を身に着けることを目的とする．前期では，指定図書の輪読を通じてその下地を作る．なお，データの収集・実践もその中で適宜行う．後期では，経済政策に関連する文献を輪読し，その中プロセスで卒業論文につながる研究テーマを選定する．
到達目標	① データを使って現象を分析するための手段およびその考え方を身に着ける． ② 文献の輪読を通じて社会経済に関する構造変化を理解するとともに，研究の基本的な方法論を学ぶ． ③ ①②によって習得した知識・手段を活用してレポート・論文を作成する． ④ ①から③のプロセスにおけるディスカッションを通じてコミュニケーション能力を高める．

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	60	自身の報告，およびディスカッションに対する姿勢を評価する．
	小テスト		
	レポート	40	期末レポートを評価する．
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	テキストの該当箇所を毎回通読し，内容と疑問点をまとめたレジュメを作成して出席してください．担当者に発表してもらいます．それ以外の人は発表後に，発表者に対して質問してください．
事前受講を推奨する科目	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『厚生労働白書 各年度版』	厚生労働省	日経印刷	各年度
	『大学生のための経済学の実証分析』	千田亮吉・加藤久和・本田圭市郎・萩原	日本評論社	2023
	『格差と闘え　政府の役割を再検討する』	オリヴィエ・ブランシャール，ダニ・ロ	慶應義塾大学出版会	2022

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『やさしい計量経済学：プログラミングなしで身につける実証分析』	加藤久和	オーム社	2019
	『日本のセーフティネット格差　労働市場の変容と社会保険』	酒井正	慶應義塾大学出版界	2020
	『データ分析をマスターする12のレッスン〔新版〕』	畑農鋭矢，水落正明	有斐閣	2022

備考	

授業の計画		
1	ガイダンス	演習の概要と演習の進め方
2	輪読＆演習	担当章の報告
3	輪読＆演習	担当章の報告
4	輪読＆演習	担当章の報告
5	輪読＆演習	担当章の報告
6	輪読＆演習	担当章の報告
7	輪読＆演習	担当章の報告
8	輪読＆演習	担当章の報告，演習
9	輪読＆演習	担当章の報告，演習
10	輪読	担当章の報告，演習
11	輪読	担当章の報告，演習
12	輪読	担当章の報告，演習
13	輪読	担当章の報告，演習
14	輪読	担当章の報告，演習
15	まとめ	春学期の総括
16	ガイダンス	秋学期の進め方
17	輪読＆演習	担当章の報告
18	輪読＆演習	担当章の報告
19	輪読＆演習	担当章の報告
20	輪読＆演習	担当章の報告
21	輪読＆演習	担当章の報告
22	輪読＆演習	担当章の報告
23	輪読＆演習	担当章の報告
24	輪読＆演習	担当章の報告
25	輪読＆演習	担当章の報告
26	輪読＆演習	担当章の報告
27	輪読＆演習	担当章の報告
28	輪読＆演習	担当章の報告
29	輪読＆演習	担当章の報告
30	まとめ	秋学期の総括

授業科目名	専門演習Ⅰ（渡邉）	担当教員名	渡邉　尚孝				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	学生は人種・民族・社会経済的階層・ジェンダー・性的指向性・障害の有無など、多様な文化集団の共存共生を目指すヒューマンサービス及び地域づくりについて検討します。文化や価値観の多様性と地域の現状を理解し、直接的支援に限らない包括的な実践情報や文献等を基に対話を繰り返しながら、多様な生き方や様々なコミュニティアプローチを学びます。
到達目標	・現実の課題テーマを自分自身の経験から見つけ出す。 ・多角的視点をもって関連情報収集を行い、文献を批判的に読み、まとめ、説明できる。 ・グループディスカッションやプレゼンテーションを行い、情報発信能力を高める。 ・以上を通して自ら問題を設定し、レポートを作成できる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	50%	平常点は質問・発言内容及び報連相の実践を指す。
小テスト		
レポート	30%	
定期試験		
その他	20%	文献紹介、発表及びディスカッション内容を指す。

事前・事後学習

・日頃から人や文化に関わる地域課題に関心を持ち、自分自身の学習課題を見つける姿勢を持つこと。
・適確な情報収集を心がけ、課題期限を守ること。

事前受講を推奨する科目

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『『情報発信者になる』 』	上野千鶴子	ちくま新書	2018

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『『下関市立大学　学びのハンドブック』 』			

備考

授業の計画		
1	はじめに	自己紹介や評価方法詳細、スケジュール確認等を含めたガイダンス。
2	テキスト輪読(1)	チームごとの報告とディスカッション。
3	テキスト輪読(2)	チームごとの報告とディスカッション。
4	テキスト輪読(3)	チームごとの報告とディスカッション。
5	テーマ選定と目的設定(1)	テーマ選定と研究目的の設定を行う。
6	テーマ選定と目的設定(2)	情報収集方法と視点について解説。
7	文献検索	研究目的に沿った文献調査を行う。
8	文献抄読と報告(1)	先行研究を要約する。
9	文献抄読と報告(2)	先行研究を批判的に検討する。
10	グループ報告(1)	個別テーマに関する先行研究の整理・報告とディスカッション。
11	グループ報告(2)	個別テーマに関する先行研究の整理・報告とディスカッション。
12	現地調査あるいは外部講師(1)	必要に応じフィールドワークによる調査を行う。
13	現地調査あるいは外部講師(2)	必要に応じフィールドワークによる調査を行う。
14	現地調査あるいは外部講師(3)	必要に応じフィールドワークによる調査を行う。
15	春学期のまとめ	春学期の学びを総括し、夏休みの作業課題を確認する。
16	秋学期ガイダンス	夏休みの作業課題を確認し、研究計画書を作成する。
17	文献輪読(4)	チームごとの報告とディスカッション。
18	文献輪読(5)	チームごとの報告とディスカッション。
19	文献輪読(6)	チームごとの報告とディスカッション。
20	文献輪読(7)	チームごとの報告とディスカッション。
21	文献輪読(8)	チームごとの報告とディスカッション。
22	文献輪読(9)	チームごとの報告とディスカッション。
23	グループ報告(3)	個別研究計画書の整理・報告とディスカッション。
24	グループ報告(4)	個別研究計画書の整理・報告とディスカッション。
25	グループ報告(5)	個別研究計画書の整理・報告とディスカッション。
26	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
27	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
28	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
29	個別報告(1)	個別研究計画書をまとめて報告し、ディスカッションを行う。
30	後期総括	本演習活動を通して学んだことを振り返り、今後の卒業研究のあり方について確認する。

授業科目名	専門演習Ⅰ（新任①）	担当教員名	新任①（担当科目「日本経済史」「日本史概論」他）				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	(テーマ) こちらは日本史のゼミです。教員は日本中世後期（南北朝・室町・戦国期）の武家領主の研究（具体的には、周防国の大名、大内家の研究）が専門であるため、「中世武家権力について考える」をメインテーマとします。中世武家権力の内訳は鎌倉殿、執権北条家（北条得宗家）、六波羅・鎮西・長門探題、鎌倉御家人、守護人、地頭御家人、在庁官人、建武政権期守護人・地頭御家人、室町殿、鎌倉公方、奥州・羽州・九州探題、大名、国人領主、戦国大名、戦国武将、国衆、地侍などとなります。 (ゼミの進め方) 春学期は論文講読や日本前近代の公文書や私文書で用いられた和風漢文体史料（くずし字ではなく、活字史料を用います）に慣れていただきます。秋学期は卒論の準備作業を進めていただきます。 (その他) 履修者の希望があれば、下関市や近隣自治体の歴史名所・旧跡や博物館や公文書館をめぐる機会を設けようと思います。
到達目標	1.歴史を鑑みつつ現代の問題を考察することができるようになる。 2専門性の高い論文や研究書を理解し、まとめることができるようになる。 3.自分の見解を適切に表現し、他者の質問に適切に回答できるようになる。 4.前近代の日本の公文書や私文書で用いられた和風漢文体史料に触れ、知的好奇心や教養を高めることができる。 5.大学で専門性の高い学問をしたという自信を持つことができる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	50	ゼミへの参加姿勢。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他	50	個人研究の出来栄え。

事前・事後学習	日本中世の通史について復習しておいてください。

事前受講を推奨する科目		
	日本史概説	
	日本経済史	

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は特に指定しません』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	※履修者の希望によっては、下関市や近隣自治体での校外学習があります。その場合は、適宜、交通費や入館料などの発生が考えられます。 ※教員が新任のため、計画が大きく変わる可能性もあります。

授業の計画		
1	ガイダンス	1年間のスケジュールの確認、受講者の自己紹介などを行う。
2	研究基礎学習	日本中世史研究を行う上での基礎的な文献や、インターネットを用いた論文検索・史料検索について講義する。
3	図書館探訪	図書館に行き、研究で用いる文献や史料がどこにあるか確認する。
4	史料輪読	日本中世史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行う事）を行う。
5	史料輪読	日本中世史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行う事）を行う。
6	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
7	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
8	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
9	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
10	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
11	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
12	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
13	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
14	論文史料講読	日本中世史に関わる論文・史料の講読を行う。
15	ゼミ前半の振り返り	半年間の学びを振り返り、夏季休暇中の取り組みについて確認する。
16	秋学期のガイダンス	秋学期のスケジュールを確認し、各自で取り組むべき課題を共有する。
17	史料輪読	日本中世史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行う事）を行う。
18	史料輪読	日本中世史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行う事）を行う。
19	史料輪読	日本中世史史料の輪読（特に予習をせずに、参加者で史料の音読を行う事）を行う。
20	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
21	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
22	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
23	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
24	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
25	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
26	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
27	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
28	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
29	個別研究報告	卒業論文に向けた各自の取り組みを報告する。
30	総括	1年間の学びを振り返る。

授業科目名	専門演習Ⅰ（新任②）	担当教員名	新任②（担当科目「マクロ経済学」「ミクロ経済学」他				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習では、基本的な理論経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）および環境経済学の基礎知識を身に着けてもらうと同時に、環境経済学や理論経済学を用いて現状の様々な問題を考察して提言できる能力を、グループワークやプレゼンテーションを通して身に着けてもらいたいと思います。3年次にそれらの知識を得るとともに、次年度の論文作成への道筋とします。 ①前期は、経済学の本を2冊取り上げ、各回において各章をグループワークでプレゼンをして頂き、ゼミ全体で模擬討論をしつつ基礎知識の復習を行います。取り上げる本は、1冊は理論経済学の簡単な本（平易な文と図で書いてありますので入門や復習にもなりますし、かつ、シッカリと基礎も付く内容です。）、もう1冊は環境経済学に関する本です。 ②後期は実際に、環境経済学やマクロ経済学に関する知識を用いて、環境問題や日本経済等に関しての諸問題を取り上げてもらい、最終的にグループワークでプレゼンを実施してもらいます（内容は柔軟に検討）。 ③備考も参照して下さい。
到達目標	①基本的な環境経済学や理論経済学（マクロ経済学・ミクロ経済学）の知識を習得する。 ②グループワーク・討論を通じて、他者とのコミュニケーション能力を図りつつ、習得した知識を実際に使用できるようにする。 ③プレゼンテーション・討論を通じて、課題分析能力・調査能力・発表能力・議論能力の向上を図る。 ④今後の論文作成につながる基礎の土台をつくる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	85	毎回出席することとグループワークを行うかどうかを基準とします。
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他	15	ゼミ内での発言や相互での助け合いを積極的に行うかどうかを基準とします。

事前・事後学習

事前学習：
前期は、担当する箇所をグループでスライドにまとめてきて、毎週輪番で発表してもらいます。後期は、各グループで設定したプレゼンテーマについて、逐次グループごとで輪番発表を行うため準備をしてきてもらいます。

事後学習
前後期とも、ゼミでもらった意見を元に、次のプレゼンの準備を行います。

事前受講を推奨する科目

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『サクッとわかる　ビジネス教養　経済学』	井堀利宏	新星出版社	2022
『環境経済学をつかむ（第4版）』	栗山浩一・馬奈木俊介	有斐閣	2020

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年

備考

・本演習は、今期初開講します。ゆえにカリキュラムは適宜調整し、様々な機会が入った場合などは柔軟に対応していきたいと思います。
・理論経済学科目の成績や得意不得意は問いません。意欲や興味があれば歓迎します。
・環境経済学のトピックも授業で取り上げますが、後期のグループ発表に関しては環境以外の日本経済等でもOKです。
・前期と後期のグループは、同じメンバーであることは全く前提としません。

授業の計画		
1	オリエンテーション	授業の進め方について、及びそれぞれ自己紹介を行う。
2	輪読・発表・討論①	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
3	輪読・発表・討論②	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
4	輪読・発表・討論③	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
5	輪読・発表・討論④	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
6	輪読・発表・討論⑤	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
7	輪読・発表・討論⑥	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
8	輪読・発表・討論⑦	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
9	輪読・発表・討論⑧	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
10	輪読・発表・討論⑨	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
11	輪読・発表・討論⑩	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
12	輪読・発表・討論⑪	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
13	輪読・発表・討論⑫	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
14	輪読・発表・討論⑬	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
15	輪読・発表・討論⑭、夏休みの過ごし方	・前期に指定したテキストの章を振り分けて、発表グループはプレゼンを準備してきてもらう。発表者以外は章を読んできて、討論の準備をする。
16	後期の進め方	・後期の最後に発表したいプレゼンテーマ内容ごとにグループを新たに組んでもらい、どういうテーマを発表したいかを検討する。班分け・数は調整する。
17	第1班報告①・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
18	第2班報告①・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
19	第3班報告①・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
20	第1班報告②・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
21	第2班報告②・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
22	第3班報告②・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
23	第1班報告③・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
24	第2班報告③・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
25	第3班報告③・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
26	第1班報告④・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
27	第2班報告④・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
28	第3班報告④・討論・問題解説	・各班の中間報告を聞く。発表班以外はその場で質疑応答を行う。
29	各班最終報告	・プレゼン大会形式で、設定したプレゼンテーマに関して最終報告をしてもらう。
30	各班最終報告と後期のまとめ	・残りの班の報告、後期のまとめ、4年生に進学するにあたって、個別論文作成への指南実施。

授業科目名	専門演習Ⅰ（新任③）	担当教員名	新任③（担当科目「経営史」「商業史」他）				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	ビジネスや経済政策について歴史的に考察するゼミです。過去の経済・経営・商業を扱った専門書の輪読を通じて、歴史的事例から有意義な教訓を引き出し、現代を相対化することを目指します。輪読対象とする書籍は基本的には日本語文献を予定していますが、参加者の希望があれば、英語文献も対象とします。輪読を始める前の準備として、歴史的事例に注目する際に必要となる基礎知識や、基本的なデータ分析の方法を修得してもらいます。なお、回によっては、専門書ではなく論文を報告・議論の対象とすることや、卒業論文作成に向けた参加者の研究報告を行うことがあります。ゼミ研修や他大学ゼミとの交流の実施については、参加者と相談の上で決定します。
到達目標	1.長期的な視点から経済・経営・商業の問題を考察することができるようになる。 2.課題文献の内容を適切に整理し、わかりやすく報告できるようになる。 3.自分の見解を、根拠と共に明確に示すことができるようになる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	100	出欠の状況、ゼミ中のパフォーマンス
小テスト		
レポート		
定期試験		
その他		

事前・事後学習	事前学習として、割り当てられた課題文献をよく読み、ゼミにおける報告・質疑応答の準備を行うこと。事後学習として、ゼミにおける議論で扱った内容を調べて理解を深めること。

事前受講を推奨する科目

経営史	ミクロ経済学Ⅰ
商業史	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『教科書は使用しない』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『コア・テキスト経済史：増補版』	岡崎哲二	新世社	2016
『経済社会の学び方：健全な懐疑の目を養う』	猪木武徳	中央公論新社	2021
『下関市立大学　学びのハンドブック』			

備考	ゼミの人数や学生の希望によって、スケジュールを変更することがある。

授業の計画		
1	ガイダンス(1)	１年間のスケジュールの確認や、参加者の自己紹介等を行う。
2	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
3	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
4	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
5	基礎文献の講読・議論	専門書の輪読に必要な知識を学ぶために、基礎文献を講読・議論する。
6	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
7	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
8	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
9	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
10	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
11	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
12	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
13	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
14	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて理解を深める。
15	ゼミ前半の振り返り	半年間のゼミでの学びを振り返り、夏季休暇中の作業について確認する。
16	ガイダンス(2)	秋学期のスケジュールを確認し、取り組むべき課題を明確にする。
17	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
18	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
19	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
20	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
21	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
22	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
23	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
24	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
25	専門文献の講読・議論	専門書を輪読し、ゼミでの報告と議論を通じて内容を理解する。
26	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
27	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
28	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
29	個別研究報告	卒業論文の作成に向けた取り組みを報告する。
30	総括	１年間の学びを振り返る。

授業科目名	専門演習Ⅰ（新任④）	担当教員名	新任④（担当科目「開発経済学」「開発途上国論」他）				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	開発経済学は、途上国の貧困解消や経済発展を考察する経済学の一分野である。途上国には飢餓、差別、感染症、紛争、児童労働、環境など、経済面で様々な課題が山積みとなっている。一方、グローバル化が進むなか、途上国には、新たな技術革新が生じ、日本より進んでいる点もある。途上国の開発課題を知った上で違う視点から日本について見ると、新たに学べることはある。本演習では、途上国経済開発に関する文献を読みながら、開発経済学的なアプローチを理解し、幅広い視野から途上国の経済・社会について考察できる能力を身につけることを目的とする。
到達目標	①テキスト、論文を読んで、要約を作成できる。 ②履修者の関心がある途上国の社会・経済開発に関する先行研究を調べる。 ③履修者が各自の卒論テーマを説明できる。

評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
	平常点	60	授業の参与度、完成度
	小テスト		
	レポート		
	定期試験		
	その他	40	グループ発表、卒論テーマの発表

事前・事後学習	①テキストを事前に熟読する。 ②割り当てられた課題を準備する。 ③質疑や関心がある課題を調べる。
事前受講を推奨する科目	開発経済学

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『入門　開発経済学―グローバルな貧困削減と途上国が起こすイノベーション』	山形辰史	中央公論新社	2023

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ストーリーで学ぶ開発経済学 -- 途上国の暮らしを考える』	黒崎　卓、栗田　匡相	有斐閣	2016

備考	

授業の計画		
1	ガイダンス	演習の概要について説明する。 自己紹介 グループ分け
2	貧困問題	テキスト講読：世界貧困の基本 統計データの調べ方法を学ぶ。 文献の調査方法を学ぶ。
3	グループ発表①	担当グループを発表する。 質疑応答、コメント
4	経済成長とイノベーション	テキスト講読：途上国の経済成長と人々の生活を大きく変えた技術革新 文献の選定基準を学ぶ。
5	グループ発表②	担当グループを発表する。 質疑応答、コメント
6	差別問題	テキスト講読：女性と性的少数者、子ども、難民、障害者 グループディスカッション 論文の構成要素を学ぶ。
7	グループ発表③	担当グループを発表する。 質疑応答、コメント
8	教育問題	テキスト講読：人間開発、人的資本 論文要約の方法を学ぶ。
9	グループ発表④	担当グループを発表する。 質疑応答、コメント
10	労働問題	テキスト講読：出稼ぎ、労働移動 研究計画書の構成要素を学ぶ。
11	グループ発表⑤	担当グループを発表する。 質疑応答、コメント
12	都市開発、医療問題	テキスト講読：インフォーマル部門、感染症、健康 研究計画書の書き方を学ぶ。
13	グループ発表⑥	担当グループを発表する。 質疑応答、コメント
14	研究方法	研究方法について学ぶ。
15	前期のまとめ	全体の評価、今後の課題
16	後期オリエンテーション	後期内容説明のほか、発表スケジュールを設定する。
17	先行研究報告①	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
18	先行研究報告②	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
19	先行研究報告③	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
20	先行研究報告④	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
21	先行研究報告⑤	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
22	先行研究報告⑥	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
23	先行研究報告⑦	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
24	先行研究報告⑧	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
25	先行研究報告⑨	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
26	先行研究報告⑩	報告者が先行研究のレジュメに基づいて報告し、皆で議論をする。
27	卒論テーマのプレゼンテーション①	卒論に向けて各自が自分の研究計画書を報告し、質疑に応答する。
28	卒論テーマのプレゼンテーション②	卒論に向けて各自が自分の研究計画書を報告し、質疑に応答する。
29	卒論テーマのプレゼンテーション③	卒論に向けて各自が自分の研究計画書を報告し、質疑に応答する。
30	後期のまとめ	全体の評価、今後の課題

授業科目名	専門演習Ⅰ（新任⑤）	担当教員名	新任⑤（担当科目「人事労務管理論」「労働経済論」他				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	本演習では、労働経済や人事労務管理に関する問題を研究するために、ただ知識を暗記するだけではなく、自分で問題点を発見する力、関連データを読み解く力、関連データを収集・分析する力、適切な資料を作成し自らの意見を他者に伝える力、他者と議論する力を習得することを目指します。 春学期は、参考文献を用いつつ、PCを使いながら統計・計量分析に関する基本的な理論およびEXCEL、Rを用いた分析方法を学びます。秋学期は、各自が関心を持ったテーマに関して、文献収集やデータ分析した結果を発表してもらいます。 研究テーマは、『労働経済白書』、『経済財政白書』などの政府公表物、新聞記事、TVなどのニュース、SNSで話題になっているテーマなどから各自自由に決めてもらいます。その上で、分析結果をプレゼンテーション形式で報告してもらい、全員で報告内容についてディスカッションを行います。
到達目標	・データ分析についての基本的な理論を理解する。 ・データ分析手法を理解し、EXCELやRを用いた統計・計量分析を行うことができる。 ・関心を持ったテーマに関して、適切なデータを用いた分析を行い発表することを通じて、プレゼンテーション能力を向上させる。 ・他者のプレゼンテーションの内容を理解し、ディスカッションすることで、論理的思考能力を向上させる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	80	出席とゼミでの参加態度。各自の発表内容。無断欠席者の単位取得は困難。
小テスト		
レポート	20	教員からのフィードバックに対応できているか。
定期試験		
その他		

事前・事後学習	・春学期は毎週２～３時間程度、演習内容について事前・事後学習をすることが望ましい。 ・秋学期は事前送付された報告者の資料に事前に目を通し、演習内で活発な議論ができるようにして望むこと。
事前受講を推奨する科目	労働経済論 人事労務管理論

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『Excelで学ぶビジネスデータ分析の基礎』	玄場公規、湊宣明、豊田裕貴	株式会社オデッセイコミュニケーション	2016
『Rによる計量経済学（第２版）』	秋山裕	オーム社	2018

備考	・演習は原則対面形式。 ・参考書については、より適切な資料が見つかった場合は追加・変更する可能性もあり。演習内でレジュメを配布するので購入は必須としない。 ・実習形式の演習の場合は各自PC持参。

授業の計画		
1	ガイダンス	各自から自己紹介してもらうとともに、演習の進め方などについて説明します。
2	ビジネスデータ分析入門①	基本的な統計理論について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
3	ビジネスデータ分析入門②	基本的な統計理論について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
4	ビジネスデータ分析入門③	基本的な統計理論について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
5	ビジネスデータ分析入門④	相関、回帰分析について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
6	ビジネスデータ分析入門⑤	相関、回帰分析について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
7	ビジネスデータ分析入門⑥	相関、回帰分析について学びつつ、EXCELを用いた実習を行います。
8	ビジネスデータ分析実践①	Rを用いた実践的なデータ分析方法について学びます。
9	ビジネスデータ分析実践②	Rを用いた実践的なデータ分析方法について学びます。
10	ビジネスデータ分析実践③	Rを用いた実践的なデータ分析方法について学びます。
11	ビジネスデータ分析実践④	Rを用いた実践的なデータ分析方法について学びます。
12	ビジネスデータ分析実践⑤	Rを用いた実践的なデータ分析方法について学びます。
13	ビジネスデータ分析実践⑥	Rを用いた実践的なデータ分析方法について学びます。
14	テーマ選定に向けた資料、文献、データ紹介	各自の発表テーマ選定の参考となる資料、文献、データを紹介します。
15	報告予定テーマの発表	各自から報告予定のテーマと使用予定データ、分析手法などの概要を説明してもらいます。
16	プレゼンテーションとディスカッション①	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
17	プレゼンテーションとディスカッション②	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
18	プレゼンテーションとディスカッション③	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
19	プレゼンテーションとディスカッション④	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
20	プレゼンテーションとディスカッション⑤	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
21	プレゼンテーションとディスカッション⑥	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
22	プレゼンテーションとディスカッション⑦	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
23	プレゼンテーションとディスカッション⑧	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
24	プレゼンテーションとディスカッション⑨	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
25	プレゼンテーションとディスカッション⑩	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
26	プレゼンテーションとディスカッション⑪	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
27	プレゼンテーションとディスカッション⑫	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
28	プレゼンテーションとディスカッション⑬	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
29	プレゼンテーションとディスカッション⑭	報告者によるプレゼンテーションと他参加者含めディスカッションを行います。
30	全体総括	各自の報告内容について、課題と今後の展望を総括します。

授業科目名	専門演習Ⅰ（新任⑥）	担当教員名	新任⑥（担当科目「簿記原理Ⅱ」「原価計算論」他）				
科目ナンバリング		開講学期	通年	単位数	4単位	配当年次	3年生

授業概要	地域の事業所と協力して、新商品（または製品、サービス）の企画をしながら、原価や予算管理について学ぶ。商品・製品などに限らず、イベントの企画などでも問題ない。 何をやるのか、わからないという人のために、過去に実行した例を挙げると、地域のパン屋さんと共同で、地元のかぼちゃを使った「あんパン」を新商品として、企画・販売した。 これは、あくまでも一例に過ぎないので、みなさんがやりたいことを提案してほしい。 春学期は、いろいろな事例を見ながら、「何をしたいのか」を考えて、企画を練り、事業計画書などを作成していくことに重点を置く。 秋学期は、それらを実行して、利益やコスト面から「振り返り」を行う。
到達目標	・事業計画書を完成させることができる。 ・プロジェクトを実行することができる。 ・プロジェクトの成果や反省点を整理することができる。

評価の方法と基準

評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考
平常点	50	
小テスト		
レポート	50	
定期試験		
その他		

事前・事後学習	地域におけるいろいろな取り組みを調べて、やりたいことを考えてほしい。 しっかりとプロジェクトを振り返り、今後、それをどのように発展させることができるか検討しよう。

事前受講を推奨する科目		
	簿記原理Ⅰ	

教科書

書籍名	著者	出版社	出版年
『なし』			

参考書

書籍名	著者	出版社	出版年
『『下関市立大学　学びのハンドブック』』			

備考	

授業の計画		
1	ガイダンス①	これからのゼミの進め方などについて話し合う。
2	簡単な会計の復習	損益計算書や貸借対照表などの復習を行う。
3	原価計算の概要	費目別計算を概観する。
4	製品別原価計算	個別原価計算と単純総合原価計算について簡単に学ぶ。
5	原価企画の概要	原価企画について概観する。
6	プロジェクトの企画に向けて	いろいろな大学の取り組みを実例で学ぶ。
7	やりたいことを考える①	地域や社会で行われている取り組みについて調べる。
8	やりたいことを考える②	やりたいことについて議論する。
9	やりたいことを考える③	やりたいことの方向性を決める。
10	事業計画書の書き方	事業計画書の書き方を学ぶ。
11	事業計画書の作成	事業計画書を作成する。
12	事業計画書の発表①	事業計画書を報告する。
13	事業計画書の修正	計画の問題点について、議論し修正する。
14	事業計画書の発表②	修正した事業計画書を報告する。
15	春学期の振り返り	15回の授業を振り返りつつ、秋学期に向けてやるべきことを整理する。
16	ガイダンス②	15回目の授業を振り返りつつ、やるべきことを具体化させる。
17	打ち合わせの準備	地域の事業所（協力者）との打ち合わせに向けた準備を行う。
18	事業所（協力者）との打ち合わせ①	地域の事業所（協力者）との打ち合わせを行う。
19	打ち合わせの振り返り	地域の事業所（協力者）との打ち合わせた結果、修正すべき点を検討する。
20	事業所（協力者）との打ち合わせ②	地域の事業所（協力者）との打ち合わせを行い、許可を得る。
21	詳細な行動計画の作成	詳細な行動計画を作成する。
22	公的書類の確認と作成	公的機関の許可について、再確認し、必要な書類を作成する。
23	事業所（協力者）との打ち合わせ③	地域の事業所（協力者）と最終的な打ち合わせを行う。
24	必要な物資を調達	必要な物資を調達する。
25	プロジェクトの実行	プロジェクトを実行する。
26	プロジェクトの振り返り	プロジェクトを振り返り、課題等を洗い直す。
27	協力者へのお礼	協力者にお礼のあいさつに行く。
28	報告書の作成	今回のプロジェクトについて報告書を作成する。
29	報告書の発表	プロジェクトの成果を発表し、様々な意見を集めて、できれば議論を行う。
30	1年間の振り返り	1年間の振り返りを行う。後輩たちに、引き継ぐ成果や反省点をまとめる。